334.4225
A839m

0025113000

0025113-000

334. 4225－A839m

滿洲移民

朝日新聞社東亜問題調査会・編

朝日新聞社

1939

ADE

334.4225
A839m

東亞問題調査會編

滿洲移民

2

朝日新聞社

朝日東亞リポート　第二册

滿洲移民

東京都千代田区丸ノ内二ノ八（仲十二号館六号四二室）
芳澤中國記念事業財團
電話（28）四一〇八番

朝日新聞社　東亞問題調査會

334.4225
A 839 m

朝日東亞リポートの發刊について

支那事變第三年の春を迎へて東亞新秩序建設に對する日本の責務は愈々重大性を加へ來り、全國民生活を擧げてこの目的の達成に邁進すべきことが要望せられてゐる。當調査會は玆に見るところあり、社內各方面專門家の協力を得て朝日東亞リポートを發刊することゝなつた。

題材の範圍は能ふ限り廣汎に、苟くも東亞新秩序建設に關係あるもの、國際問題たるとを問はず之を取扱ふ方針とした。而してその內容は努めて平易なると共に專門的ならんことをも期するものである。

昭和十四年一月

朝日新聞社　東亞問題調査會

國立国会図書館
35.3.-
514108

序

滿洲移民問題は今日最早や試驗期を終つて國策としての實行期に入つた。滿洲移民が內地の人口問題解決の見地からのみならず、日滿支三國の經濟的互助連環の關係樹立を目的とする東亞新秩序建設の一翼として日本民族の大陸移動といふ歷史的使命を荷ふものであることは言ふまでもない。玆に昨秋滿洲移民地を視察された本調査會前會長下村宏氏が多忙裡に纒められた現地報告を東亞リポート第二輯として、發表することを得たるは本會の欣快且つ感謝する所である。

昭和十四年二月

東亞問題調査會

はしがき

滿洲の移民。それは內地の人口調節といふ問題を解決するばかりではない。それは日清日露の兩役、滿洲事變、支那事變の終りを完うする道であるばかりでない。

日本民族が滿洲に進出し、いかに日滿一如の實を示しうるや。さうした我等民族の大きな使命を解くべき鍵なのである。

此一篇は何よりも先づ果して日本民族は滿洲に住みうるや否やを、事實に於てたしかむるを本義としてある。滿洲は寒い、日本人に向かないといふので、日本人は次第に後退するのか。それとも滿洲の冬の來るを待ちかねる民族となつて、あとから〳〵繰り出して行けるのか、いはゞ日本民族の體位の耐寒試驗

である。

我等今次の旅行に於て、日本民族は滿洲に堪へ得べしといふ結論を得てかへりし事は、我民族のため有難い事であつた。もし之れが反對であつたなら、今日までの日本の對外工作の大部はあげて御破算になるのである。

東亞問題調査會に於ける一場の講話が機緣となりて、この一書を公けにする事となりしは、誠に本懷である。それは私が滿洲移民につき筆に口に日夜宣傳に專念してゐるからである。年末近く身上ます〳〵多忙である。その中であわたゞしく速記に手を入れた。削除したところはかなり多いが、一面增補せる部分は更に更に多い。しかし何んといつても滿洲は前後三週間の旅であり、北滿には十日にすぎない。めぐりし所も少なく、視察の時も短かい。誤れるもの足らざるものも無いとはいへない。されど私が人口問題や拓植問題に緣故が深いため、談話に記錄にあらゆる方面から資料を得た事は有難い

事であつた。こゝに拓務省、滿洲國の中央地方の官憲、滿拓及滿鮮拓の兩公社、南滿鐵道、滿洲移住協會等等の各方面から、處在の移民村守備隊の人々、東道の人、同行の人たち、特に此行を最も長く共にした滿洲移住協會理事長大藏公望男に、それからそれへと此機會に厚く感謝の意を表する者である。

昭和八年「日本の行くべき道」を公けにせるときよみし十首の一を錄してむすびとする。

滿洲の寒さ日本人に堪へ得ぬか
そのはろか北のシベリアに町あり

十三年十一月十二日夜・朝風莊に於て

海南識

目次

序
はしがき
此書を讀まるゝ前に……一
日本民族移民の過去・滿鐵移民概觀・一擧兩得の分村移民・商工業移民・鐵工移民尖兵
本論……八
第一、移民部落の概念……八
第二、農業移民入植地……一〇
集團移民・自由移民・林業移民・煙草移民・緣故移民・鐵道自警村・青年義勇隊・鐵道小訓練所・府縣別移民入植數
第三、移民部落視察の經路……二一
第四、移民村のメツカ彌榮と千振……二五
千客萬來のメツカ・惡戰苦鬪時代

第五、滿洲國土の概念……二七
第六、二十ヶ年百萬戸計畫……二八
百萬戸年次別・移民補助の大要
第七、滿洲の干拓と水電事業……三〇
渡邊金三君の對濕地策・北滿の大平野・吉林小峰村の水電
第八、滿洲移民の父……三三
北大營時代の加藤完治君・佳木斯入植と東宮大佐
第九、移民補助の內容と經營樣式……三五
集團移民の場合・自由移民の場合・共同經營時代・個人經營時代・移住者の農業經營
第十、多產、多產、多產……三九
彌榮と千振の現況・瑞穗村・看護婦・產婆
第十一、南五道崗の一日……四一
第十二、第一次彌榮村の現況……四三
彌榮村の機構と沿革・彌榮村の村勢・彌榮村の行政・彌榮村の產業
第十三、第三次瑞穗村、第六次南五道崗の現況……五六

瑞穗村の人口・瑞穗村の人畜と收穫・信濃村の人口・信濃村の農作と種畜
第十四、密山から林口へ……六四
密山線の國境氣分・龍爪の綿羊牧場
第十五、青少年義勇隊……六五
五ヶ所の青年訓練所・鐵驢の訓練所
第十六、青少年訓練所是非……六七
青少年訓練所の開始・十四年度の計畫
第十七、自由移民の內容……七〇
自由移民の分類・自由移民の構成關係
第十八、鐵道自警村と天照村……七四
鐵道の愛護村と自警村・茨の道を踏み越えた天照村
第十九、天理村の一夜……七七
天理教青年會・天理村の特異性・天理村の現況・天理村民の布教
第二十、北京の天理教……八一
崇文門內の教會・安定門內の昭和傳道處
第二十一、蒙疆の天主教と滿洲の布教……八五

蒙疆の天主教・瑞穂村と彌榮村の本願寺・滿洲及び支那の宗教……八七
第二十二、滿洲の朝鮮移民……
在滿鮮人の現狀・鮮農の水田經營・朝鮮人部落の集結……九一
第二十三、滿鮮拓植公司……
滿鮮拓植公司の設立・倆不氣部落の半日・鮮民部落の現況……九三
第二十四、健康地滿洲……
何故に滿洲で病むか・濕氣なく晴天に惠まれる滿洲・換氣と採光……九五
第二十五、天惠の樂土滿洲……
全土これスキー場・滿洲越年十二則・衣食住の改善……九九
滿洲移民國策の樹立……一〇四
跋に代へて……

此書を讀まるゝ前に

日本人の海外移民は總計いまだ百九十萬人にすぎない。漸く日本の增加人口の二年分位にしかあたらない。それも最近激增した滿洲國への移民數を計上してゐるからであつて、日本人はさう引込思案の民族ではないが、かくも海外移民の貧弱すぎるのは、德川鎖國の餘風をうけた事と、明治維新以來年々激增する人口も、國運の躍進により右から左へと消化されたからに外ならない。

日本人の移植民は、

明治元年より三十三年に至る布哇移民時代

明治三十四年より四十年に至る北米移民時代

を通じて、當時はいはゆる出稼時代といふべきであつて、それから內地の人口過剩が叫ばれ、北米その他の有色移民禁止の風潮と共に、

明治四十一年より現在にいたる南米移民時代となり

政府も移民進出に關心を持つことゝなつた。その後現在の大陸移民時代に三變し、こゝに移民は純然たる國策時代となつたのである。

この一篇は昭和十三年の秋多にかけての滿洲移民視察談であつて、滿洲移民は昭和七年其の一歩を踏み出してから、

滿洲の集團移民　四十九ヶ村
同　自由移民　四十八ヶ村

が既に北滿に實現され、本十四年度は國費補助二千二百萬圓滿洲拓植公社の事業資金一億二千萬圓を以て、

集團移民自由移民　一萬一千戸約五萬人
青少年義勇軍　三萬人

を送る事になつてゐる。山東移民は約四十萬人と制限されてゐる事と、滿洲移民は北滿地方であるため摩擦を起す事少なく、滿洲の天地に大和民族の農村文化を興し日、滿、支協力して滿洲の農業の積極的開發をなすのが目的で、今後大陸の花嫁希望者も澤山あるので、移民地も婦人の協力により潤ひと和ぎを增し、滿洲を故郷とする第二世、第三世がどし〳〵生れる。かくて二十ヶ年後には百萬戸の滿洲農業移民が完成を見るべきである。又見ねばならない。

本視察談は滿洲における農業移民の現況であるが、歸朝來時が許したならば、移民特に分村移民を送り出した內地の地元を視察し、併せ報告すべきであつた。しかしいまだその機を見るに至らない。いふまでもなく、內地の農村の一戸當りの土地は狹きに失する。時と共に自立自營が困難を增しつゝある。爲に既に相當の債務を負へるものも少くない。分村移民は一つは移住先きでは老幼男女そのまゝ移るのであるから、その現地への落ちつきがあり、又ある潤ひがあり、あたゝか味がある。同時に移民を送り出した地元ではそれだけ戸數の減少により殘されし一戸當りの土地がそれ〴〵に擴大されるわけである。それだけ地元の經濟が幾分とも在來より好調に向ふべきである。此一擧兩面にわたる實績につきては、又他日視察もし、又報告する時もある事と思ふ。

更に當然考へられる事は商工業移民である。この問題についてはまだこゝに詳しく述べる時期に達してゐないが、十三年十二月の新聞紙上に

『犧牲中小產業の滿洲移植本格化
——商工省の積極策樹立』

なる見出しの下に次の如く記されてある。

犧牲產業を大陸に移植せしむるため、商工省では、轉業對策部高橋事務官を滿洲國に派遣、同國產業部および各地方につき調査をせしめてゐたが、最近同事務官が歸朝、その報告に本づいて具體的な移植計畫を樹立して、これを積極的に業者に勸說することになる模樣で、犧牲產業更生の新天地は開かれることになつた。國內の犧牲產業の大陸への移植は滿洲國の產業開發に協力せしめるとともに、

わが國の犠牲産業者の轉業を全からしめ、安住の地を得せしめる原則に本づいて行ふとの見地から、滿洲國政府と協議し現地調査を行つた結果、だいたい現在のまゝ直ぐにでも平和中小工業者の轉業安住を得るものとしては、機械修繕業、部分品工業（自動車および自轉車工作機械など）仕上工業、電氣器具工業、鐵骨組立工業、鍍金工業などであつて、これらは滿洲の大工場地帶の何れのところでも業者が不足なので、その移住は非常に要望されてゐる。なほまた大工業地帶の下請けも要望されてゐるが、これは技術的に相當の向上を必要とするので、組合のやうな小群團を組織して訓練を施した上移植せしめ、また大工場との契約を政府が直接に斡旋して行ふ必要があるといはれる。さらに內地地方に存在する技術的に劣つた野鍛冶の休、失業狀態にあるものが非常に多いが、これは集團移民に最も必要なもので、現在移民村では僅かな野鍛冶を動員して、移民村の農具を製作供給してゐるが、明年においても一萬戸（三萬人）を拓務省が滿洲に分村せしめる計畫があるが、この際には野鍛冶をも農村の一つの必要なる機構に加へて送る必要があり、商工省では拓務省と協議を進めることになつてゐる。

同じ頃に大阪で日滿支の經濟懇談會があつた。その折の新聞記事として、

『鐵工移民尖兵』

なる見出しの下に次の如く記されてあつた。

工業都大阪で鍛へた中小工業者たちは「鐵工移民」の尖兵として熟練工不足に悩む滿洲に進出、工業日本の力强さを示さうとはりきつてゐたが、十二月七日滿洲國側から進出OKの朗報が齎された。

過般の日滿支經濟懇談會の成果の一つとして、さきに大阪府でこの鐵工移民の方針を樹立してゐたのが、たくましい實を結んだわけだ、この朗報といふのは大阪市產業部あて奉天の同部駐在員から齎らされたもの、滿洲國では商工省からの依頼により、中小鐵工移民入植につき政府當局と奉天、吉林濱江、錦州の關係四省間で協議した結果、これらの鐵工移民入植を双手をあげて歡迎、さしあたり第一期移民は試驗的に奉天、錦州の兩省に來春四月までに入植せしめることゝ決定、つづいて第二期、第三期とこの移民群はどし〳〵滿洲に進軍し、ゆくゆくは奉天に三十工場、錦州に五工場を建設するほか、相當量の鐵工移民入植につき次々の計畫がたてられてゐるのだ。

たゞこれらの鐵工移民のための工場新設が、既有の諸工場との間に摩擦を生じはしないかとの懸念もあるが、この點については奉天で各關係業者が會合して、鐵工移民の業種ならびに工場の規模などを協議し、具體的意見を決定のうへ、政府に傳達することゝなつてゐるといふ愼重ぶりである。第一期鐵工移民はその尖兵ともいふべき大阪の十家族で近く人選を決定するが、滿洲國への移民として力强い新機軸の鐵工移民の將來は洋々たる前途が開けたものとみられ、人的資材なかんづく技術員、職工不足に悩む滿洲國は大助かり、一方時局の影響で轉失業の岐路にたち苦惱する大阪の中小鐵工業者は救濟されるし、一石二鳥の政策として事變下にふさはしい。

滿洲への商工業移民といふ事に關聯して、滿洲の工業、さらに日滿間の工業の將來といふ上に幾多の

問題を心頭に浮べざるを得ない。それは足を一たび奉天の新市街に入れたらば、萬人共に想及しうべき問題である。

さらに〳〵滿洲國の現地における政治宗教教育、それからそれへとそこに限りなき幾多の思索がつゞけらるべきである。しかしそれらはこゝに述ぶべくも無い。

こゝには滿洲における農業移民の現狀を述べる。それは經濟的に成り立ちうるといふ事と、それが日本民族の體位に堪へうるといふ事を立證するが爲めに外ならない。

宣言

日本の內地では五百六十萬戸の農民が六百萬町歩の土地を耕してゐる。

我等の食糧を供給するだけには、あまりに國民の多數がかゝりすぎてゐる。今までの半分でも事が足りるのではないか。現にこの非常時に手不足の農村は從來通りの植付も刈入れもすませ收穫をあげてゐる。

滿洲には可耕地三千萬町歩、未耕地にして千七百萬町歩ある。內地の五反百姓より滿洲の十町百姓に進出すべきである。

滿洲の空氣は乾燥してゐる風が强くなく雪が少ない、快晴がつゞく。日本內地の空氣は濕潤である、風が强く雨天が多い、曇天が多い、吹雪もある。だから內地は溫度以上に蒸しあつく又

より寒く感じられる。滿洲の氣候は溫度にくらべて凌ぎやすい。

滿洲の快晴日數は一年平均して東京の三倍であり、札幌の九倍である。それだけ紫外線量が豐富である。だから呼吸器病の療養に適してゐる。だから北滿の天地にして水田ができる。問題はいかにしてその風土に順應し、さらに之に打ちかつかである。

日本民族はいつ〳〵までも狹い〳〵柴螺のやうな島の中にかゞまつてゐるには及ばない。日本民族は隨時隨處へぐん〳〵とのびてゆくべきである。さうして所在の民族と手を結び力を協せ、共に共に一つとなりて新しき東亞の建設にかゝらなければならぬ。日本の民族の氣宇はどこ〳〵までも大きく和光同塵の襟懷がなければならぬ。滿洲の北の北に人がある、町がある。滿洲への移住それは肉體の問題でない、實に心のかまへの問題である。

第一、移民部落の概念

私は、朝鮮の時局對策調査會に列席し、最終日の九月九日の夜、實は十日の午前三時に京城を立つて、その夜新京に入つた。そして十三日から北滿の移民村の視察に廻つて、二十二日に再び新京に歸つたのである。その間九ケ所ばかりの移民村を參觀したが、汽車の便とても一日に一、二回であり、また驛から十里內外隔たりしところもあり、どうしても一つの移民村を一日或は一日半か二日位かゝるのが例である。しかも多くは移民村の本部を訪問するに止まる事が多く、各部落をたづねたなら、一つの村といつても中央の本部を取卷いて、各部落は近くも一、二里、遠きは四、五里に及んでる。それ〴〵に一戸當り十町歩以上の土地を持つて居るのであるから、互に一、二里の間隔を保つことになる。從つて私共の部落訪問といふのも本部への道筋に當る部落であつて、本部から離れた部落まで出かけるとなると、また一、二日餘分にかゝるといふ事になる。

更に集團の移民村とても第一次より第三次までは、それ〴〵一つ所にまとまつてゐたが、移民數の增

加と共に第四次以來は次第にその移住地點を增加し、五省に亘り二十二ケ所を算してゐる。

更に之を詳說すれば、十三年四月現在にて

集團移民村	四十九ケ村
自由移民村	二十六ケ村
林業移民村	四ケ村
煙草移民村	一ケ村
鐵道自警村	二十三ケ村
青年義勇隊訓練處	五ケ村
青年義勇隊鐵道自警村小訓練處	十ケ村
開拓哈爾濱訓練所	一ケ村
合計	百十三ケ村

の多きに及び、鐵道自警村は鐵道線路に沿ふてゐるが、その他は相當の距離にあるものが少くないから、これらを一〻訪ねるといふ事になれば、二、三ケ月の日子を要する事になる。それだけに移民部落視察といつても、視察した時次第に大きに動きがあり、又場所次第で著しい相違もありうるのである。

第二、滿洲農業移民入植地

昭和十三年四月一日現在

(一)集團移民

入植次	省名	縣名	地區名	入植戶數	入植府縣名	最寄驛	團長名
第一次	三江	樺川	彌榮	四九三	中部、關東、東北各府縣	彌榮	山崎芳雄
第二次	三江	依蘭	千振	四九四	〃	千振	宗光彥
第三次	濱江	綏棱	瑞穗	二九八	全國各府縣	克音河	林恭平
第四次	牡丹江	密山	城子河	三一〇	〃	鷄西	佐藤修
〃	〃	〃	哈達河	一九〇	〃	東海	貝沼洋二
第五次	〃	〃	永安屯	二九八	關東東北各縣	莫和山	木村直雄
〃	〃	〃	朝陽屯	二七八	各縣	黑臺	矢口道愛

〃	〃	〃	黑臺	二一二	關東北陸各縣	〃	代理 加藤熊次郎
〃	〃	〃	黑臺信濃村	二一二	長野	〃	青木虎若
第六次	三江	湯原	湯原熊本村	三〇〇	熊本	蓮江口	中村秀市
〃	〃	〃	湯原宮城村	二〇〇	宮城	〃	多田理三郎
〃	〃	〃	湯原福島村	二〇〇	福島	〃	佐藤民四郎
〃	〃	〃	湯原茨城村	三〇〇	茨城	鶴立崗	鈴木米司
〃	〃	湯原	湯原靜岡村	二〇〇	靜岡	鶴立崗	得能數三
〃	〃	〃	湯原東北村	三〇〇	東北各縣	〃	佐藤昇
〃	〃	〃	湯原東海村	三〇〇	中部各縣	〃	廣部永三郎
〃	〃	牡丹江	黑咀子	三〇〇	關東北陸各縣	黑咀	古谷久雄
〃	〃	虎林	東二道崗	二〇〇	福岡	北林	內藤誠
〃	〃	密山	西二道崗	二〇〇	九州諸縣	〃	田中常雄
〃	〃	〃	南五道崗	三〇〇	長野	密山	平澤千秋
〃	〃	〃	北五道崗	三〇〇	山形	斐德	熊谷伊三郎
〃	三江	勃利	龍爪	三〇〇	中國、近畿諸縣	龍爪	和田章藏

第六次	濱江	綏稜	黑馬劉	三〇〇	四國各縣
〃	〃	〃	海倫海倫	三〇〇	群馬
〃	〃	〃	通北五福堂	二〇〇	新潟
〃	〃	〃	老街基	二〇〇	埼玉
〃	牡丹江	密山信濃村	長野	一〇〇	長野
第七次	濱江	珠河六道河	山形	三〇〇	山形
〃	〃	〃	〃	二〇〇	山形(庄內)
〃	〃	〃	三股流	二〇〇	茨城
〃	〃	延壽元寶鎮	大青川	二〇〇	大分
〃	〃	〃	中和鎮	三〇〇	長野
〃	〃	葦河周家營	〃	二〇〇	埼玉
〃	〃	五常朝陽川	三個頂	二〇〇	廣島
〃	〃	〃	太平川	三〇〇	東北各縣
〃	〃	〃	小山子	二〇〇	九州諸縣

〃	〃	〃	〃	二〇〇	香川
〃	〃	〃	綏稜十三戶	二〇〇	四國三縣(除香川)
〃	〃	〃	慶城拉林	三〇〇	宮城
〃	〃	〃	〃	二〇〇	〃
〃	〃	〃	鐵驪安拜	二〇〇	福島
〃	〃	龍江訥河北學田	〃	二〇〇	新潟
〃	〃	牡丹江虎林清和	〃	二〇〇	熊本
〃	〃	三江湯原四合屯	〃	二〇〇	中國諸縣
〃	〃	〃	依蘭七虎力	二〇〇	近畿諸府縣
〃	〃	〃	吉林額穆黑石屯	二〇〇	群馬
〃	〃	〃	盤石牛心頂子	三〇〇	關東諸府縣
〃	〃	〃	樺甸八道河子	二〇〇	長野(大日向)
〃	〃	〃	舒蘭四家房		

〃	〃	〃	〃	森野陽一	平田秀彥
〃	〃	〃	〃	三浦定夫	石田伊十郎
〃	〃	〃	〃	高橋又藏	堀忠雄
〃	〃	〃	〃	塚原正雄	出井菊太郎
〃	〃	〃	〃	上田重雄	青木虎若
〃	〃	〃	〃	梅川勝衛	前田武次
〃	〃	〃	〃	井田武	佐藤繁作(代理)
〃	〃	〃	〃	伊藤厚坪	廣瀨玄之助
〃	〃	〃	〃	山下藍吉	後根春一
〃	〃	〃	〃	横井清	松村朝信
〃	〃	〃	〃	濱中良之助	齋藤瀨藏
〃	〃	〃	〃	堀川清躬	高橋武夫
〃	〃	〃	〃	〃	神原春造
〃	〃	〃	〃	佐々木朝松	上野源次

(備考) 第六次及第七次ノ入植戶數ハ計畫戶數ナリ

(二) 自由移民

十三年七月現在

名稱	入植地	入植年月日	計畫戶數	最寄驛	代表者
一棵樹開拓組合	興安南省通遼縣錢家店	昭和八年三月	五〇	錢家店	畑野喜一郎
天理村	濱江省阿城縣第三區	〃	七〇	三棵樹	橋本正治
新潟青年農業移民	吉林省額穆縣烏林保小八家子屯	十一年九月	一〇〇	蛟河	片桐堅二
大黑山開拓組合	吉林省盤石縣第二區大梨樹保笞條頂子	十一年一月	三〇	煙筒山	原尾京一
鏡泊學園村	牡丹江省寧安縣鏡泊湖畔	十二年三月	二〇〇	東京城	水城伊三二
三河共同農村	興安北省額爾克納左翼旗三河依根	十二年三月	二四	海拉爾	岡部勇雄
呼倫貝爾開拓組合	興安北省索倫旗免渡河	十二年三月	四〇	免渡河	古賀新作
隼人村開拓組合	吉林省磨石縣第五區西玻璃河套	十二年三月	三〇	明城	田代正滿
白山子開拓組合	吉林省永吉縣第二區孤舖子	十二年三月	一七	黃旗屯	宮崎千博
江密峯開拓組合	吉林省永吉縣江密峯	十二年三月	一五	江密峯	井口美壽
雙河鎮開拓組合	吉林省永吉縣雙河鎮	十二年三月	一四	雙河鎮	後藤保一
水曲柳開拓組合	吉林省舒蘭縣水曲柳	十二年三月	一四一	水曲柳	今村清
鐵關岩手村	濱江省鐵嶺縣第一區石長	十三年四月	三〇	慶城	伊藤孫右衛門

桃山自由移民	濱江省鐵嶺縣第一區桃山村	十三年三月	三五	同右	坂本辰太郎
十勝開拓組合	吉林省舒蘭縣好城保大葦塘	十四年三月	三〇	小城	竹內末次郎
高知自由移民開拓組合	吉林省舒蘭縣小城保四合屯	十四年三月	五〇	同右	岡崎泰治
松陰村	濱江省葦河縣平陽泉	十四年三月	一二〇	亞布洛尼	岡田勇治
拉法自由移民	吉林省額穆縣新站保拉法	十四年三月	一〇〇	拉法	野中彌太延
力行村	新京郊外拉々屯	十四年三月	三〇	新京	永田稠
東豐青森開拓組合	奉天省東豐縣鎭安村	十四年三月	四〇	東豐	運上康夫
虻牛哨自由移民	奉天省昌圖縣虻牛村杏山屯	十四年三月	一〇	虻牛哨	土田重雄
常盤村	吉林省盤石縣牛心頂子	十四年三月	二〇	磐石	坂本虎之助
葦河村	濱江省葦河縣四順堂	十三年六月	二五		長谷川市藏
公主嶺自由移民	吉林省懷德縣四合屯	十三年	一〇	公主嶺	津田耟夫
福島自由移民團	吉林省舒蘭縣四家房保	十三年一月	一一	四家房	國分龜雄
肇東自由移民團	濱江省肇東縣大平山	十三年三月	五〇	宋	濱村伊物治

(三) 林業移民

名稱	入植地	入植年月日	計畫戶數	最寄驛	代表者
仙洞農林共勵組合	牡丹江省寧安縣仙洞	昭和十一年九月	三五〇	仙洞	安館菊二
古城鎮華林共勵組合	三江省勃利縣古城鎮	〃 十一年九月	二二〇	古城鎮	泉四郎
三岔口農林共勵組合	間島省汪清縣二岔口	〃 十一年九月	八〇	天橋嶺	上條嘉一郎
新秋田農林共勵組合	間島省和龍縣二道溝	〃 十一年九月	八〇	龍井	村山申
小計			七三〇		

(四) 煙草移民

名稱	入植地	入植年月日	計畫戶數	最寄驛	代表者
湯山城煙草移民	安東省安東縣湯山城村	昭和十三年四月	一〇	湯山城	森八藏

(五) 緣故移民

名稱	入植地	入植年月日	計畫戶數	最寄驛	代表者
入虎力開拓團	三江省依蘭縣入虎力	昭和十三年四月	三〇〇	千振	矢島良太

(六) 鐵道自警村入植地一覽

入植次	村名	入植年月	入植戶數	所在地
一	女兒河自警村	昭和十年四月	一〇	牽山線女兒河站附近
〃	黑山頭自警村	〃	一九	奉吉線黑山頭站附近
〃	口前自警村	〃	一〇	〃 口前站附近
〃	綏化自警村	〃	一〇	濱北線綏化站附近
〃	泰安自警村	〃	一一	齊北線泰安站附近
〃	白城子自警村	〃	一一	洮昂線白城子站附近
二	蛟河自警村	昭和十一年四月	三〇	京圖線蛟河站附近
〃	小城自警村	〃	三〇	拉濱線小城站附近
〃	小市自警村	〃	二一	濱洲線小市站附近
〃	雙城堡自警村	〃	一三	京濱線雙城堡站附近
〃	安達自警村	〃	一〇	濱洲線安達站附近
〃	龍鎮自警村	〃	二〇	北黑線龍鎮站附近
〃	柴岡自警村	〃	一二	京白線柴岡站附近

三	泡子自警村	昭和十二年四月	二五	大鄭線泡子站附近	
〃	靠山屯自警村	〃	二〇	奉吉線靠山屯站附近	
〃	明城自警村	〃	二〇	〃 明城站附近	
〃	四家房自警村	〃	一九	拉濱線四家房站附近	
〃	寧安自警村	〃	二〇	圖佳線寧安站附近	
〃	東京城自警村	〃	一三	〃 東京城站附近	
〃	阿城自警村	〃	二〇	濱綏線阿城站附近	
〃	五家自警村	〃	二〇	京濱線五家站附近	
〃	白家自警村	〃	三〇	濱北線白家站附近	
〃	訥河自警村	〃	三〇	寧墨線訥河站附近	
計	二十三村		四二四		

(七) 滿洲開拓青年義勇隊訓練所一覽

入植地	訓練所名	最寄驛	所長
龍江省嫩江縣伊拉哈	嫩江	寧墨線伊拉哈	山崎芳雄

黑河省孫吳縣孫吳	孫吳	北黑線孫吳	代理 鵜沼重雄
牡丹江省寧安縣沙蘭鎮	寧安	圖佳線東京城	佐藤修
濱江省鐵驪縣鐵驪	鐵驪	濱北線綏化	代理 高橋要一
三江省勃利縣桃山	勃利	圖佳線勃利	代理 森堀琢磨

(八) 滿洲開拓青年義勇隊鐵道自警村小訓練所一覽

入植地	訓練所名	最寄驛	代表者
錦州省彰武縣馮河	馮河	奉山線馮河	今井實夫
吉林省額穆縣小姑家	小姑家	京圖線小姑家	南部孝
吉林省永吉縣河灣子	河灣子	京圖線河灣子	藤田吉郎
吉林省磐石縣取柴河	取柴河	奉吉線取柴河	遠藤重作
三江省勃利縣青山	青山	圖佳線青山	石井共進
三江省勃利縣楊木	楊木	林密線楊木	松井長治
三江省依蘭縣追分	追分	圖佳線追分	片岡藤雄
龍江省龍鎮縣龍鎮	龍鎮	北黑線龍鎮	佐藤武富

龍江省通北縣李家寧年	李家寧年	濱北線李家寧年	鎌田幹夫 岸井初哉
龍江省訥河縣寧年		齊北線寧年	

（九）滿蒙開拓哈爾濱訓練所

所在地	最寄驛	所長
濱江省哈爾濱市礎	京濱線哈爾濱	飯島連次郎

更に此等集團移民を送り出した內地の狀況を見ると次の如くである。

滿洲農業移民府縣別入植數

長野	八三七	山形	七九一
宮城	六九五	新潟	四四五
福島	三九一	群馬	三六八
茨城	二七五	熊本	二七二
埼玉	二六九	石川	二六七
秋田	二二六	香川	二二六
廣島	一九一	青森	一八七
岩手	一六四	靜岡	一四九
栃木	一四七	高知	一三五
岐阜	一一七	鹿兒島	一〇九
福岡	一〇六		

一〇〇以下七六以上（順次不同）富山、山梨、愛知、三重、岡山、愛媛

七五以下五〇以上（順次不同）神奈川、福井、和歌山、德島、佐賀、他は五十以下

第三、移民部落視察の徑路

私の移民部落視察は先づ、哈爾濱を起點として、次の如き行程を取つた。

九月十三日	哈爾濱郊外	滿蒙開拓哈爾濱訓練所・哈爾濱泊
九月十四日	黑河線克音河まで鐵路それより自動車綏稜縣克音河へ引かへし綏河驛に下車更に慶源を經て鐵驪泊	第三次璃穗村泊
九月十五日		鐵驪青年義勇隊

九月十六日　哈爾濱にかへり　天理村泊
九月十七日　牡丹江線亮子嶺驛下車　倆不氣鮮民部落　ヤブロニー驛眞夜乘車
九月十八日　牡丹江、林口を經て密山泊
九月十九日　密山より自動車六里　第六次のうち南五道崗　密山に引返へし林口泊
九月二十日　林口にて龍爪移民團長龍爪　第二次千振村泊
　　種畜場長と會見夕
九月二十一日　千振より
九月二十二日　佳木斯より哈爾濱へ飛行　第一次彌榮村　佳木斯泊

瑞穗村も朝早く立つて克音河へ、さらに綏化からは佳木斯へむけて今鐵道建設中で、慶源までは開通してゐる、それから先は建設列車で、初めての客車の試運轉に乘車し、夕景鐵驪に着いたのである。

鐵驪には青年訓練所があつて、二千六百名ばかりゐる。この日は一行の數の最も多かつた時で、一行十數名は鐵驪の干泥守備隊長に一方ならぬ手數をかけた。

翌日は夕景哈爾賓にかへり、こゝでは天理村の只野整助君に迎へられて、今度は只一人哈爾濱の郊外に出で、そこから九キロの軌道、それが水害の故障にて夜八時すぎ天理村に入り、翌日は朝五時半頃村を出て哈爾濱にかけつけ、大藏男や鮮拓の岡田猛馬重役と牡丹江線の列車に搭じ、亮子嶺に下車、ガソリンカーにて葦河縣なる倆不氣……リヤンプテイーと讀む、リヤプチカといふのが露語の雉子を意味して露人が雉子狩によく出かけた土地である……といふ朝鮮人の移民部落を視察し、ヤブロニー……之は

林檎ださうである……驛のカフエー店に小憩、そこを夜半の三時頃大藏男と東西にわかれ、益滿君の案内により東行の客車に搭じ牡丹江で夜が明けて、これから佳木斯線に乘りかへ林口にてさらに密山線にうつり、ソ聯國境氣分を味つて密山に泊つた。この密山から六里ほど入つたところに南五道崗といふ先人未住の地帶がある。今は信濃村とて第六次移民村の一つであるが、極めて順調に進み、昨年先遣隊が入り、今は後續部隊が乘り込んで、大體の眼鼻もつき家族を呼びよせつゝある。

その日は林口に引きかへして宿泊。翌朝は降雨の爲め龍爪の移民團長や種畜場長に來宿を求めて會談、それより鐵路第二次の千振驛に下車一泊、翌二十一日に第一次彌榮村を經て佳木斯に一泊。二十二日午前糧棧や油房を視察して、午後に哈爾濱へ飛行機で飛ぶ。その夜急行にて新京にかへつて來たのである。

第四、移民村のメッカ・彌榮と千振

以上私の視察した所は九ケ所にすぎぬ。まだ〳〵不充分であるが。しかし滿洲めぐりの人々は特に專

門的に巡視しない限りは、多くはその一、二だけしか見ないのが例になつてゐる。しかも滿洲の現狀は一年一年と著しく動いてゆく、變つてゆく。普通の移民村見物は第一次の彌榮と第二次の千振といふ事になつてる。いづれも佳木斯に近く移民村のメツカとでもいふてよろしい。この二ケ所へ毎日幾組となく視察團の人達が押しかけて行く。春秋氣候のよい頃は連日幾組となく視察とか慰問とかいふので押しかけてゆく。出かけていつた人たちもおちおちと視察することが出來ないし、またこれらの本部の人達も、毎日のやうにお客の應接や案内に忙殺されて本職の仕事に手がつかない有樣である。これらの實狀については、私は關係方面にも話をして、これから專門的に滿洲拓植なら國鐵なり滿洲國政府なりで、ツーリスト・ビユーロー式の設備をとゝのへ、遠來のお客に便宜を與へる途を講じるよう註文をした。これからは村の人たちもあまり迷惑しない。仕事の邪魔にもならない。と同時に遠來の客も一と通り視察もでき、大體の概念も得られるやうになる事と思ふ。

このほど或新聞紙上で移民村記を見た。それには千振と彌榮が移民村のショー・ウインドー、無論良い意味のショー・ウインドーであるやうに書いてあつたやうに思はれるが、實際は千振、彌榮は、最初の試驗移民として在鄕軍人を以て編成したる武裝移民であつた。彼等は一番艱難を重ね苦勞をなめたのである。第一次移民は十數回の戰鬪に十三名の戰死者を出し、第二次移民は十八回に十一名の戰死者を出した。移民は昭和八年九年頃は匪賊と爭鬪つゞきで、殆ど農耕のいとまもなく、

一、匪賊の危害が大きい

二、成功の時期遠くてあてにならぬ

三、差當り現金收入がない

四、身體病弱で心細くなる

五、家庭にいろ〳〵惱みが起る

六、農業無經驗者は農業に不安であり執着が薄い

七、植民精神が衰へ他に轉じたき氣分が起る

さうした多くの原因があるところへ、何よりも匪賊の危害が主因となり、第一次彌榮村では戰病死者を加へて入植者四百九十二人中二百十名の減員となり、第二次千振村にても入植者四百九十四人中二百九名の減員を見た。

だから當時日本移民の聲がかなり內地へ放送されたが、今日では匪害はなくなる、そこへ鐵路が佳木斯、牡丹江を結びつける。全くの別世界となつたのであるから、年毎に著しき變化を見せてゐる。しかしそれにしても、それだけの苦勞をなめたのであるから、そこに苦勞の皺が殘つてゐるので、見方によれば苦勞を重ねた紀念のショー・ウインドーとも見られぬ事はない。從つて北滿における日本移民發祥の地として第一次及び第二次移民の人達が如何に苦勞したか、そして今日の彌榮、千振村をつくりあげたか、誰しも見ておかねばならない。そしてかへつて惡戰苦鬪の只中に視察した人たちは、今日百貨店までできる千振村の殷賑ぶりを見て、今昔の感を味ふもよい。いづれにしても移民村のメツカを見舞ふと共

に、それから後の第三次、四次、五次、六次、七次と後になるほど前の苦い經驗に照して、すべての事業の經營振りから衣食住までも改善される。ことに住家の建て方など次第に住み心地よく、衞生的に便利に出來てゐるのみならず、三次以後になると、土匪といふか共匪といふか、とにかく匪賊の被害が殆どないのである。多少はあつても當初にくらべて、殆ど比較にならない。第一次、第二次の時代とくらべたら比較にならない。そこへ購買なり又販賣等の機關も次第に整つてくる。交通の利便は同じ作物なり加工品にしても容易に市場に運び出せる。そのために著しくその價格を高め、收入の增加を見る事になる。ところによると、佳木斯の對岸湯原方面とか、密山沿線などは炭田に近いので、石炭も噸四圓五十錢位で上等のものも入手されるやうになる。だから移民の狀態もその間に絕えず大きな動きがある。だから移民談を耳にするときは、いつもそれは、

何年の何月に見たのか
第何次の移民村を見たか

と先づこの二つをたしかめる事を忘れてはならないのである。

第五、滿洲國土の概念

私の移民村視察の多くは大藏男爵と行を共にした。君は滿洲移住協會の理事長であり、私は理事であるが、大藏君は既に數回視察してる玄人である。かつて滿鐵にも居たので、あらゆる方面に精通してゐる。その上滿洲拓植會社の益滿四郎君が東道の主人となつてる。第三次移民村に行く時には、此外農林省の小濱農務局長一行も一緒であつた。之に滿洲國政府の總務廳の木村參事官、產業部の松任谷事務官、拓務司の平川事務官、滿鐵自警村の瀧口直君の諸君が加はる。鐵驪村の時にはさらに今井五介翁、中川良輔君の一行が參加する。又ブラジルの移民事業を長く經營してゐた鐘紡の福原八郎翁がこれに加はつたから、ブラジル移民との比較話も出る、滿鐵自警村談も出る。ことに滿洲國政府の若い元氣な事務官たちと三日三夜、汽車に自動車に宿舍に、朝夕膝を交へたのであるから、日數の割合には少からぬ耳學問をした事であつた。

さて先づ荒筋から話してみると、滿洲全體は百三十萬平方粁で、面積は大體日本帝國の六十六萬五千

平方キロに對し約倍である。朝鮮の二十二萬平方キロに對し、約六倍、九州、臺灣、南樺太などの約三十五倍の面積を持つてゐる。

この滿洲に今大體三千五百萬人の人口があり、その滿洲の土地の中で、町歩にして全面積一億二千萬町歩の中、可耕地が約四分の一乃ち三千萬町歩を占め、その可耕地の中で千三百萬町歩が既に耕されてゐる既耕地であるから、あとの千七百萬町歩は未耕地であつて、その中から大體千萬町歩位のものが日本の移民のために充當されうるといふのである。

第六、二十ヶ年百萬戸計畫

昭和七年より十年までに入植したる約千八百戸の試驗移民の成績により昭和十一年八月日滿兩國政府は二十ヶ年百萬戸の大量移民計畫を樹立し、十二年よりその實施に着手した。

一、移民を分ちて政府取扱にかゝる集團移民と民間の行ふ自由移民の二種とし、次の如く入植せしむるものと豫定する。

	集團移民	その他の移民	計
第一期	七〇、〇〇〇戸	三〇、〇〇〇戸	一〇〇、〇〇〇戸
内譯			
昭和十二年度	三、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇
十三	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	一五、〇〇〇
十四	一五、〇〇〇	六、〇〇〇	二一、〇〇〇
十五	二〇、〇〇〇	八、〇〇〇	二八、〇〇〇
十六	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
第二期五ヶ年間計	一二〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
第三期 〃	一四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
第四期 〃	一七〇、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
通計	三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

二、移民に對しては一戸當り農耕地十陌及若干の放牧地・薪炭備林地を考慮し、その用地として農耕地約千陌を必要とし、之につき滿洲國に於て整備する。

滿洲國政府の調査によれば、適地總面積約千六百九十萬陌内可耕地約九百二十萬陌を整備しうる見込で、尙右の外移民用地として昭和九年に買收したる滿洲拓植公社所有地約百萬陌あるを以て、百

萬戸の移民用地可耕地千百萬陌は略之を整備しうる見込である。

本用地の整備の方針としては官公有地を先にし、主として未耕地を之に充つる等、つとめて原住民に惡影響を及ぼさゞるよう考慮した。

三、移民に對しては、日本政府に於ては一戸當り集團移民につき約千圓の補助金を交付する外、滿洲國政府に於ては治安、交通、通信、營農等各般の事項に關し、行政上の保護を爲し、滿洲拓植公社は移民地に必要なる施設及びその經營、土地の買收管理分讓を爲す外必要なる資金の低利金融をする。

滿洲拓植公社は日滿兩國の協定により設立せられたる日滿兩國の二重國籍を有する特殊法人にして、資本金は五千萬圓なり、尙その資金の調達を容易ならしむるため、拂込資金の十倍までの社債發行力を認むる外その社債元利支拂につき、日滿兩國政府に於て保證を爲すことゝなつてゐる。

此の如くにして滿洲の人口は二十年後五千萬人となる。その中へ百萬戸一戸五人として五百萬人移住するといふ概算である。

第七、干拓と水電事業

こゝで一寸付言しておく事は、加州の牛島ポテト王の事業經營に當りし渡邊金三君の滿洲國視察談である。氏は滿洲に於て更に一千萬町歩の土地を濕地の狀態から改善することが出來、將來七千萬人の居住民の食糧をまかなひ、猶四千萬人分の食糧を生產しうるといふ事を說いてゐる。それは次の如くである。

北滿の地は、カナダのウヰニペツグ平野と、北米のミシシツピ流域とならんで世界の三大穀倉である。土質はこまかい粘土質で、地下一乃至二メートルは凍る。每年六、七、八月の交一年分の三分二の降雨があるが、それが中々地下まで滲み通らない。それに地形が平坦すぎる、非常に緩漫な傾斜であるため、雨が降れば水が氾濫して、それが何時までも引かない。何故引かないかといふと、哈爾濱と佳木斯、ハバロフスク、それから黑龍江の出口のニコライエフスク、この間の地形を見ると、

	距離	標高差
哈爾濱、佳木斯間	四五一粁	約五十米
佳木斯、ハバロフスク間	五一五	約五十米
ハバロフスク、ニコライエフスク間	九四五	約五十米

乃ち哈爾濱から黑龍江河口まで延長千九百キロメートルを越えて、その間標高百五十メートルの差しかない。しかも黑龍江の出口は河幅僅かに一哩位しかなく、深さ十三尺位で、松花江の水だけでも到底はけきれないのである。こゝに於て年々水害が相つぎ、滿洲特產の大豆も水分を含みすぎて質を低下す

る。濕地が多く、アミーバ赤痢はじめ家畜の病毒が瀰漫してる。松花江一帶五百萬町歩以上は水びたしになり、三ケ月位にわたつて水が引かない。此の水害を除去する一法としては松花江、離江の水をせきとめて小出しに流す、水量を調節する事である。

現に松花江流域にダムを作つて、相當の水をこゝで喰止め、洪水の災を除くと共に、濕地を干拓し同時に電力を起し、それによつて灌漑の途を拓く。これが有名な吉林の上流二十四粁なる小峯門水力電氣事業であつて、工事費約三千百五十萬圓を以てダムをつくる、五萬六千町歩だから、大凡琵琶湖位の貯水池で、

落差五十メートル、水量毎秒五三〇立方メートル、十八萬キロリットルの電力を起し、十六萬町歩の水害地は肥沃の地となり、七萬町歩の水田が開拓され、千四百萬圓の生産增

を見ようといふのである。嫩江、第一及び第二松花江を通じて、さしむき八ケ所にダムをつくり、九十萬町歩は干拓さるべしといふのである。

いづれにしても滿洲殊に北滿には肥料を要しない未耕地の沃土多く、さらに濕地にして干拓さるべきもの又少からざる事を知るべきである。

第八、滿洲移民の父

——加藤完治君と東宮大佐——

旅行日程の順序とはなれて先づ第一次、第二次の移民村からお話をする。第一次の彌榮村と第二次の千振村は試驗移民といはれ、在鄉軍人を以て編成されてゐる。當時は佳木斯との交通にしても、鐵路なくロクな道路もなく、この一帶の地方は土匪の大頭目謝文東の根據地に近く、ために屢々土匪に包圍され、又多季森林地帶に伐木に出かけては襲擊され、少からぬ犧牲が拂はれてゐるのである。

さらに此の初期の移民を話すときには、その又以前の奉天北大營時代について話さねばならない。滿洲移民については、その昔山形、次で友部の國民高等國民學校々長として、精神的農事訓練をつゞけた加藤完治君の名を忘れてはならない。加藤君は朝鮮半島に於ても植民につき長く努力をつゞけ、滿洲事變には又奉天の北大營陷落するや、張學良軍の死骸を片づけつゝ生々しい戰跡の中で奉天における友部の國民高等學校の分校たる滿洲の國民高等學校を開いたのである。それから後に北大營が滿洲國軍の兵

營になつてから、さらに北進して哈爾濱に移轉した。それが今日の哈爾濱の中央訓練所である。各移民村の指導員幹部たちはこの訓練所で訓練することになつてゐる。

それから、愈々佳木斯の武裝移民を始めるその前後から開始後數年間の加藤完治君の努力は實に想像以上であつて、くさ〳〵の非難反對の壓を押し切つて、一歩一歩と踏みしめてをつた。この加藤君の功績は永久に傳へらるべきものであるが、同時に軍部の中に加藤君の事業を支持し補翼した東宮鐵男大佐があつた。移民の先驅者として又民族協和の實踐者であり、昭和二年獨立守備隊付として奉天在勤中より滿蒙開拓につき熱意を持ち、六年滿洲國政府軍政部顧問として勤務するや、軍、省廳、拓務省に說きて滿洲事變の第二年目に第一回の移民入植を見るに至り、九年には青少年移民を遠く饒河の地に送り、北進寮に收容して訓育し、こゝに義勇軍の大計を樹立したのである。

大佐の人格、大佐の總望は所在の滿洲人敬慕の的となつた。昨年出征の時も大佐は只移民事業の事のみ遺言して出かけたが、江南戰線に杭州灣上陸の時戰死したのである。今度陸軍省、關東軍、拓務省、國務院等各方面の代表委員會ができ、協和會が中心となり、故人にとり思ひ出の多い彌榮村に東宮大佐の記念移民會館が出來るといふ話であつた。丁度私の佳木斯に居るときも、今度公園ができたが、その名稱も東宮公園とする事になつたと聞いた。いづれにしても、加藤完治君及び東宮大佐の名は逸し得られない永く不朽に傳へらるべきである。

第九、移民補助の內容と經營樣式

一、移民補助の內容

◇ 集團移民に對する分

戶別補助と公共施設補助にわかれる。渡航費補助の外開田費、重要造營物、農具、家畜及產業施設等營繕に要する固定資本の約三分の一に相當する金額を補助する外、組合事務所費、衞生獸醫費に付、移民團の組合に對し補助して一戶當一千圓となる。

一、戶別補助

渡航費　本人　八〇圓
　　家族二人を標準とす　一六〇
個人施設補助　六〇〇

共同產業施設補助	三〇圓
小計	八九〇
二、公共施設補助（三百戸一組合の場合）	圓
組合事務所建物費	三、〇〇〇
診療所其他建物費	三、〇〇〇
醫療費（三ヶ年分）	六、四〇〇
醫師其他給與（三ヶ年分）	一七、〇〇〇
醫師其他赴任費	七〇〇
雜費	九〇〇
小計	三三、〇〇〇
一戸當	一一〇
合計 一戸當	一、〇〇〇

◇ 自由移民に對する分

農業自由移民に對しては渡航費を含め、一戸當五〇〇圓その他の移民は渡航費として一人當八十圓（十四歳未滿半額とす）

以上の外に三百戸單位として土地代、開田費、主要造營物、農具、家畜、共同產業施設として約七十六萬八千圓、一戸當二千五百六十圓を要しその中から固定賃金の半分の六百五十圓は政府補助となり、差引千九百十圓は滿洲拓植の貸付となり長期は二十五年賦、短期は十年賦、いづれも五ヶ年据置、年利四分五厘にて償還する事になつてる。

二、移住地の經營樣式

イ、共同經營時代——團長指導員先遣隊の早春の入植より本隊入植まで（第一期）

甲、先遣隊は移住總戸數の一割五分乃至二割

乙、先遣隊の任務——建設計畫の作製、農耕地の割當、家屋の借上修理、共同宿舍の建築、蔬菜の栽培、防禦施設の構築、必需品の調達。

翌早春本隊入植より個入經營に移るまで（第二期）

本隊は大體同鄉者毎に分散居住し、部落單位の經營にうつる。

個人家屋の建設作業を中心に農耕その他の作業を爲す。

一ヶ年約三分の一づゝ個人家屋建築逐次家族招致（事實はずん〳〵早くなる）

此間敎育、醫療、村政の諸機關協同組合等完備せらる。

ロ、個人經營時代

先遣隊入植後三年乃至四年を經て個人經營にうつる。

土地も分割され、農耕に專念となりうる事となり、自給以上の收穫により、販賣收入も本格的となる。

協同組合中心となり農事合作社制に準ぜられ街村制も布かれる事となる。

三、移住者の農業經營

個人分割の可耕地　約水田一町、畑九町、計十町。之に共有放牧採草地あり。

本隊入植後初年度耕作面積約一町五反

第二年度	約三町
第三年度	約五町
第四年度	六町乃至七町
第五年度	八町乃至十町

四、作物

大豆、小麥、玉蜀黍、燕麥、大麥、水稻等。

蔬菜、甜菜、煙草、大麻等。

勞力は不足がちなるも家族の增加に伴ひ內地より又所在の屈傭勞力も必要となる。

自作農を本位とし有畜混同農業とし水田作を加味し、食糧（米及麥）及飼料（燕麥及野乾草）の自給と共に羊毛、羊肉、牛乳、牛肉、牛皮等の補給等國防資源物資の供給につとめる。

第十、多產、多產、多產

先づ人口問題より見て第一次彌榮村の實況では昨年十二月末の統計によると、戶數が三百戶、內妻帶者が二百八十九人、殆ど全部といつてもよい位である。子供の數は三百四十三人、つまり一戶當り一人と一四である。その三百四十三人のうちで、現地で生まれた子供が二百九十五人である。從つて如何に子供の出生率が大きいかといふことが判る。まだ此外に既にお腹の中に居るのが少くない事も忘れてならない。次で第二次千振村でも戶數が三百二十八戶、こゝでは妻帶者が二百八十四で、前者とは少し開きがあるが、子供は三百十二人ある。そのうち二百四十七人が現地出生になつてゐる。

此の如く子供は到るところ盛に生まれる。私の觀察した瑞穗村の六月末現在の統計によつても、百九

十八人の男子に對して妻君が百九十人、子供が二百六人、そのうちで百五十人が現地出生といふことになつてゐる。子供の出生率の高いことはいふまでもなく、一番元氣な連中ばかりがかういふ所に來て達者で働いてゐるから當然姙娠する出産する。當初働く力を男子一に對し婦人はコンマ五乃ち半分と見てゐたが、このコンマ五を働く婦人たちが引つ切りなく姙娠するから中々コンマ五にならない。出産前後は男子の一の力までも相當減少する。赤ん坊が生れると朝の田畑への出足も暫休みからの田畑への出足もいく分づゝおくれる。しかしそれは目出度い事だから文句はいへない。いづれも此の先の大きな力を生んでゆくのである。

この瑞穗村には醫者が一人、看護婦が一人で至つて閑散である。天理村などでも村民よりも附近の滿洲人の方がずつと澤山見えますといふ事であつた。之れが內地であればまだ全國に三千餘の無醫村がある。又醫者があつても醫藥の代金がかさ張るので、つひ醫者にかゝるのも手おくれになりがちである。さうした地方、さうした階級の人々より見れば、北滿の移民村の方が却つて惠まれてるともいへる。滿洲ではいづこも醫者の乏しいのは事實であるが、ものは見方一つである。ところで醫者一人、看護婦一人であるが產婆は五人居る。大分多すぎるがこの方は中々忙しい。

千振でも彌榮でもさうであるが、本部が中央にあつて、そこには農產物の加工所として味噌、醬油、酒等をつくるところや、倉庫や小學校、神社、病院等の施設がある。此頃はお客が多いから宿屋まで出來てる位である。この本部を中心にして近くて一里二里、遠くは三里四里といつたところに信濃村、山

形村といふやうに大體二十戶位の小部落が點在してゐる。それ〴〵に二三百町歩の耕地を部落の周圍に持つてゐる。それへ牧草地とか濕地とか森林もあるから、かれこれ一村二萬町歩內外といふ廣いところに數ケ所の部落が散らばつてゐるのである。

だから中央の小學校にしても、近くの部落であれば小學校へ通學もできるが、遠いところからは通ひきれないので、就學兒童たちは寄宿して土曜、日曜に自宅へ歸るといふ具合にしてをる。また所によるとトラックなどへ一處にコミにして小學校通ひの兒童を乘せて通はせるといふやり方もある。

いづれにしても、さうした各部落には病人のあるところは少ないが、到るところ姙娠する、お產をする、產婆さんは各部落まで駈けつけねばならないから中々忙しい。そこへ產婆さんも姙娠するから五人あつても足らないといふ實況である。

第十一、南五道崗の一日

とにかく一村平均三百戶なら三百戶、五百戶なら五百戶ある。それが二十戶位づつ各部落に分れて、

さうして各戸約十町歩ほど持つ。初めの一年は全部共同經營である。先遣隊がそこへ行つて家屋を建てる、或ひは病院、學校、さういふ施設に力を入れる、二年目から各部落々々が開墾を始める。かうして二年の末頃には、家族を呼び寄せられるやうになる。三年目あたりから二十戸なら二十戸共同で耕してゐたものを、各自の好みなり籤引なりで、分割してそれ〴〵の個人所有に移すことになる。

初めの第一次や第二次の移民の頃は、家族を呼び寄せるどころではない。土匪には襲はれる、交通は不便である。皆非常に苦い經驗を嘗めたのである。近頃の新しい部落になると、さうした點については非常に惠まれて來てゐる。鐵道は出來てゐるし、土匪の襲來はなくなつてる、僅かな間に著しい相違を見る事になつてる。

私共は、國境線密山から六里北にあたる昨年先遣隊が入植したばかりの南五道崗へ行つたが、こゝはお客さんの見舞つたのは私共が初めてであつた。密山から滿洲拓植のトラックで無住地帶を五道崗まで六里餘走らせる。その間には一軒の家もないが、道々婿さんが日本から呼びよせた嫁さんを密山驛に迎へ、それから手を引いて村へ歩いて行くのに出あふ。中には長靴の花嫁もある。皆ニコ〴〵笑顔である。無論好いた同士が久し振りで遠い〴〵北滿の天地で逢つたのである。陸じい連中に、「さア乘り給へ」とトラックへ乘せる。また走らすと同じやうな一組に追ひつく。かうして賑かなほゝゑましい三組か四組ばかりの若い夫婦たちを乘せて行つたが、とても朗かな空氣であつた。さて、村の本部へついて聞くと、いづれも鄉里の信濃と同じだ。何だか他國に來てゐるやうな氣がしない、といふ。いかさま南

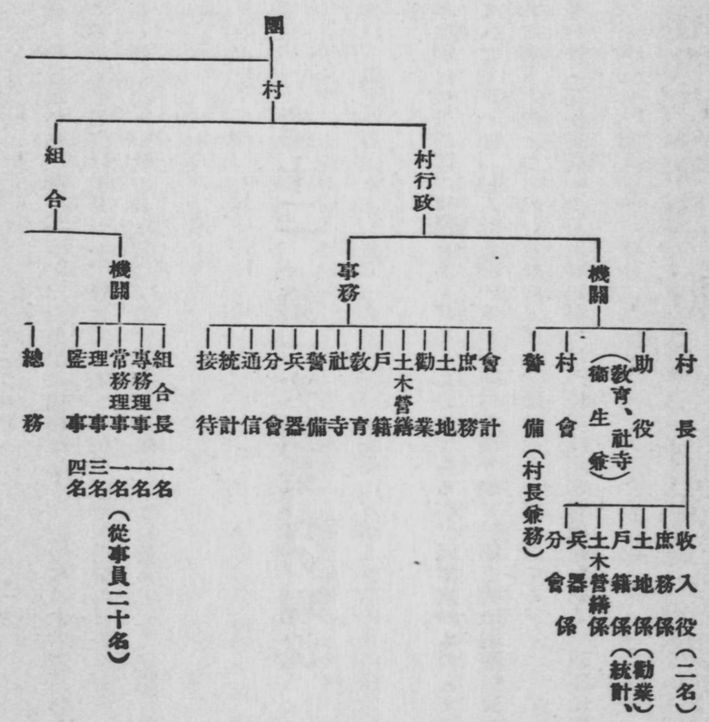
五道崗一帶は山の多い所であつて、山道には楊柳はなくて柏楡等の木が淨山群生してる。私はこの山道を柏の木越えと名づけて見たが、峠までくると、前面に南五道崗の原野が廣々と展開され、左右にうしろに高く低く山々が秋の日に匂つてる。いまだに忘れらない眺めとして記憶に殘されてゐる。

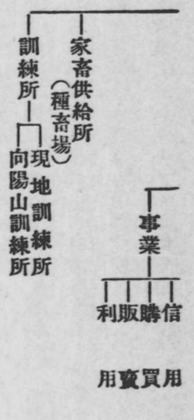
第十二、第一次彌榮村の現況

各年次別に代表部落の狀況をかゝげるとよいのであるが、同年次のものとて必しも一律に行かないので、こゝに昭和七年入植したる第一次の彌榮村の刷り物と、第三次の瑞穗村及び昭和十二年に入植した第六次南五道崗につき統計資料の一部を抄錄參考の一端に供する。

彌榮村は（拓務省第一次農業移民團）は三江省樺川縣彌榮村にある。以下は康德五年五月現在の概況である。

彌榮村の機構





彌榮村沿革

一、拓務省第一次滿洲農業移民四百九十二名（東北六縣關東北部三縣並に長野新潟二縣の合計十一縣より、選拔）は警備指導員市川中佐指揮の下に昭和七年（大同元年）十月三日帝都を出發す。

一、昭和七年（大同元年）十月十四日午後五時佳木斯埠頭に到着す。

一、同年十月十五日午前八時上陸現在佳木斯國軍訓練所たる宿舍に入り冬期間佳木斯市街の警備に任す。

一、同年十二月二十六日宿舍に向つて三、四百名よりなる匪賊の襲撃を受け六時間に亘る交戰の後之を撃退す。

一、昭和八年（大同二年）二月十一日一ヶ中隊を編成して、永豐鎭の移住地に派遣し建設準備に着手す。

一、同年三月末日迄に佳木斯の全員は永豐鎭に入植す。

一、同年四月より農耕を開始し四百三十町歩の播種を行ふ。
一、同年四月土地協定を爲し移民團用地を定む。
一、同年九月彌榮神社を八里崗に建立し皇大神宮を奉祀す。
一、同年八月より共同家屋を建築し十一月初旬完成す。
一、同年十月第一回の家族三十名渡來す。
一、昭和九年（大同三年）二月十六日午前一時紅槍會匪約百名永豐鎭移民團本部を襲擊し來り火を放ち本部一棟全燒、三名の重傷者を出す。
一、同年（康德元年）四月十日約二千六百名よりなる謝文東匪來り永豐鎭を包圍せるも駐屯現役部隊と協力夕刻迄に擊退す。匪團の遺棄屍體六十。
一、同年六月より個人家屋建築を開始す。
一、同年九月南山に忠魂碑を建立す。
一、同年十一月十四日彌榮小學校を創立開校す。
一、昭和十年（康德二年）より初めて本格的なる農業經營を爲し得るに至る。
一、同年三月彌榮村と命名して自治を宣言し屯墾の文字を廢すると同時に彌榮村共勵組合を結成し事業の綜合運營の合理化を企圖せり。
一、同年六月よりトラクター開墾を開始す。

一、同年十二月彌榮本願寺を永豐鎭本部東方地に開設す。
一、昭和十一年（康德三年）四月耕地を一千町歩に擴張す。
一、同年十月十五日共同經營を戸別經營に分解せしむる第一歩に入る。（團員獨立宣言）
一、同年十月十五日より組合の事業整理を爲し特殊技能者の獨立營業を認む。
一、同年十一月彌榮病院を完成す工費一萬五千圓なり。
一、昭和十二年（康德四年）三月完全なる戸別經營に移る。
一、同年六月一千七百町歩播種完了す。
一、同年八月稀有の水害に遭遇約二十萬圓の損害を蒙る。
一、同年九月村役場新築落成す。
一、同年十月四日彌榮小學校在外指定學校に指定せらる。
一、同年十月同校新校舍落成十一月十四日移轉完了す。
一、昭和十三年（康德五年）四月より保甲辨事處を開設、事務所を役場内に置く。

第一　村　勢

一、位　置

滿洲國三江省樺川縣第六區永豐鎭

北緯四十六度二十五分東經百三十度四十分標高百八十米内外

二、氣象

昭和十一年（康德三年）度の氣温降水量霜雪狀態を揭ぐれば次の如し。

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
氣温 最高極數	(−)八、四	(−)二、二	三、八	一七、〇	二四、七	三三、五	三二、〇	二九、七	二五、九	二二、四	一七、二	(−)三、八	
氣温 最低極數	(−)三九、〇	(−)三五、八	(−)三〇、二	(−)一六、七	(−)二、二	二、八	八、七	五、八	(−)〇、八	(−)八、〇	(−)二七、四	(−)三八、四	
氣温 平均	(−)二三、九	(−)一三、七	(−)一〇、八	(−)五、二	一二、六	二〇、二	二二、七	二二、八	一六、三	七、〇	(−)五、一	(−)一九、三	年平均 三、〇
降水量	二、〇	一、六	二、八	六一、九	六九、一	二四、三	三〇九、六	二八二、三	一〇〇、二	六、六	五、一	八、九	總量 一〇三六、四
霜	初霜		九、二八 晚霜				五、二〇						
雪	初雪		一、〇一四 晚雪				四、二六						

三、開村當時の狀況

入植當時永豐鎭は李根と稱する紅槍會匪頭目の占據する所となり、現在の彌榮村役場た其の本營とせり。同匪は移民團入植と共に歸順せしが當時の戶數二百の中多くは無住家屋たり。

四、移民團用地

移民團の用地は推定面積四萬五千町歩あり。東部は森林繁茂し大八虎力河南柳樹河は源た此處に發

す。

五、彌榮村の部落構成

彌榮村は左の十六區及向陽山訓練所より成る。

永豐區、青森區、岩手區、宮城區、福島區、長野區、新潟區、群馬區、栃木區、茨城區、秋田區、北大營區、羽陽區、山形區、西彌榮區、大八虎力區、向陽山訓練所。

六、戶口（昭和十三年四月三十日現在）

戶數	妻	子	其他	計
三〇一	二九一	三三六	一七六	一、〇九七

尙村域內滿鮮人戶數及人口次の如し。

(1) 永豐鎭保　戶數 一、〇四四戶　人口 四、九五五名（男二九二七名 女二〇二八名）

(2) 永豐鎭甲　戶數 四〇三戶　人口 一、八五〇名（男一一〇〇名 女七五〇名）

七、出生

昭和十三年四月三十日現在に於ける出生人員數左の如し。

性別	昭和九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度	同十三年度	計
男	三	二八	六〇	六一	二三	一五七

女	一	三二	三三
合計	四	五九	一二

八、死亡

昭和八、九、十年度三ヶ年間累計二十六名、十一年度十二名、十二年度三十九名、十三年度（四、三〇現在）八名にして入植以來八十五名とす。而して其の内譯は

戰死者　二十五名、病死者　六十名　なり。

九、家屋建築

昭和十一年度を以て完成、團員家族は何れも個人家屋に安居せり。

第二　行政

一、村行政機構

イ、部落＝移民團十四部落に永豐鎭、大八虎力を加へて彌榮村と稱し十六區に分つ。永豐區大八虎力區のみは移民團員と滿鮮人との雜居なれ共他は團員のみを以て形成す。

ロ、機構＝團長、村長、助役、收入役、庶務、勸業、戸籍、郵便、接待の各係を置き會計、農業、畜産、在鄕軍人會、郵便等の事務を執りつゝあり。

團長は顧問として指導的位置に立ち移民村經營の全般的計畫及監督に任じ、村長は村を代表し村

行政執行に當る。村長は指導員を以てし助役以下は村民より選出す。

二、彌榮村共勵組合

イ、機能＝入植以來經濟的部門に屬する事業は產業組合にて處理する方針の下に差し當り日用品の販賣を開始せるが昭和十年組合の强化擴張を圖り各種の事業を經營するに至る。爾後多少變革ありたるも現在の主なる事業は、

日用品購買、販賣、信用、釀造、精米、精粉、搾油、製材、煉瓦及石灰製造、宿泊所等とす。

ロ、機構＝組合には組合長、理事、監事及び總代を置き組合長は村長兼任とし理事中より專務理事及常務理事各一名を選出し組合事業運營に當らしむ。

三、教育

昭和九年（康德元年）十一月十四日彌榮小學校を開校す。當時兒童は僅か六名なりしも現在は三十六名に增加し三名の教員を有す。

昭和十二年（康德四年）十月小學校舍の永久建築完成し同月四日在外指定學校に指定さる。

小學校學級數及男女別兒童數左の如し。

性別	學年別							
	一年	二年	三年	四年	五年	六年	高一	高二	計
男	三	四	一	六	一	三	一	一	二〇

女	二四二三二	一一一一六		
計	三八三九三	四三一三六		

第三 產業

一、營農方針

本村の農業は多數の家畜を採り入れたる所謂高度有畜農業とす。

二、耕地

可耕地約一萬町歩、放牧地一萬町歩あり。

昭和十三年（康德五年）度作付豫定面積は一千七百餘町歩。

水田は南柳樹河の沿岸に散在し最渇水期の水量未詳なる爲、個人分配は見合せあるも水田經營上支障なき見込なり。

昭和十三年（康德五年）度作付豫定面積及收穫豫想高表

種別	作付豫定面積	反當豫想收量	豫想全收量
水稻	一八〇町〇〇	一、〇〇石	一、八〇〇、〇〇石
大麥	一七〇〇〇	一、三〇	二、三〇〇、〇〇
小麥	二〇〇〇〇	七五	一、三〇〇、〇〇
燕麥	二八〇〇〇	一、三〇石	四、一〇〇、〇〇石
大豆	四三〇〇〇	一、〇〇	四、三〇〇、〇〇
小豆	二〇〇〇〇	一、七〇	一四〇、〇〇
綠豆	三〇〇〇	一、三〇	一四、〇〇
粟	二四〇〇〇	一、〇〇	二、四〇〇、〇〇
包米	三〇〇〇	一、〇〇	三〇〇、〇〇
菜豆	一〇〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇
馬鈴薯	六七〇〇	一三〇貫	一〇〇、三〇〇貫
高粱	一〇〇〇	一、〇〇石	一〇〇、〇〇石
黍	三〇〇	一、〇〇	三〇〇、〇〇
煙草	一七〇〇	—	—
計	一、七〇〇町〇〇	—	—

右表の外　蔬菜畑一〇〇町歩及水田一七五町歩（役場にて管理す）あり。

三、家畜

本村は營農方針に基き夙に種畜場を設けて優良家畜の飼育增殖並に飼養法の研究を行ふと共に畜產加工をも併せ行ひ斯業の奬勵に努めつゝあり。

イ、馬匹の改良、昭和八年（大同二年）馬匹の改良を企圖し種牡馬ロシヤ種トロツター種を購入在來種の改良に着手せるが、昭和十年（康德二年）に至り滿洲國馬政局よりアンゲロアラズの貸與を受くるに及び該種により改良することゝ成せり。

ロ、牛の改良　昭和八年（大同二年）夏以來ホルンタイン種及びシンメンタール種の雜種を入れ研究せるが其成績良好なり。更に昭和十一年（康德三年）短角牛を入れて在來種の改良を開始せり

尙牛の改良は乳役牛、肉役牛の二種を目標とす。

ハ、綿羊　被服の可及的自給を目指して羊毛の增產を計り昭和八年メリノー改良種並に在來種を購入し來り飼養と羊毛利用の研究に着手せり。越えて昭和十年（康德二年）日滿綿羊協會より三百頭の在來種と種牡羊としてコリデール種並に昭和十二年（康德四年）在來種五十頭の貸與を受け爾來增殖を圖りつゝあがる成績見る可きものあり。

ニ、豚　在來種は多產なれ共肥育良好ならず、爲に昭和八年（大同二年）バークシヤ四頭を購入し爾來專ら在來種の改良を行ひつゝあるが一代雜種の成績良好なるを認む。更に昭和十一年（康德三年）滿洲國より十三頭の配給を受けたるを以て純粹種の繁殖と在來種の改良を併せ開始せり。

ホ、養蜂　昭和八年（大同二年）以來研究し來れるが最も有望なるを知る。昭和八年（大同二年）度に四群を購入したるが、昭和十一年（康德三年）には百三十に群分封するを得たり。一箱にて平均石油罐二ヶ分の採蜜を爲せり。因に本村飼育動物の種別數を示せば左表の如し。

彌榮村飼育動物一覽

區別	種別									
	種馬	耕馬	乳牛	役牛	綿羊	豚	雞	家鴨	鳩	蜜蜂	山羊
青森	—	三一	—	—	—	二七	三五	一〇	四	—	—
岩手	—	三九	—	一	—	三三	三〇	八	四	二	三
宮城	—	七九	三	一	一三〇	九五	一三五	一五	九	六	九
福島	—	七一	—	—	三	七〇	一〇七	二七	一五	三	九
長野	—	七三	二	一〇	二〇	七三	一二五	一三	二五	二	一
新潟	—	六九	—	二	七〇	三九	二五	四	七	八	
群馬	—	七二	—	—	—	一〇三	四〇	三	—	二	二
栃木	—	二九	—	九	—	三五	七〇	一五	一	七	—
茨城	—	二九	—	一	—	三七	六八	二〇	—	三	三
秋田	—	四四	—	—	—	二八	二五	七	—	二	—
北大營	—	三五	—	一〇	—	三七	一〇〇	二五	二	—	三
羽陽	—	三九	一	二	二七〇	一四〇	八五	三五	六	八	
山形	—	一三五	—	一	—	一三〇	二〇	三七	三	—	二

種畜場	二	一	八	六	二五〇	三三	四〇
計	二	七五四	一四	四三	六九五	一、〇三〇	一、〇六七

二六四	七一	一三〇	九六	一	八	四	一

第十三、第三次瑞穂村及第六次南五道崗の現況

甲、第三次瑞穂村の現況（昭和九年移住）

人口現況

最初	二六六人	病死	六人
退園	一〇三	補充	二
現在	一九八		

畜

招致	一九九人	現地結婚	三人
死亡	四	その他	八
現在	一九〇		

子

招致	七五	出生	一三二
死亡	一八	その他	三
現在	二〇六		

その他

招致	八四	出生	三
死亡	三	その他	一〇
現在	七四		

現在計　六六八人

人畜累年別表

	戸數	耕地面積	馬	牛	役畜耕地面積
十年	二九八	三六〇 町	八〇	一三	三、九一 町
十一年	二四〇	七五六	二〇三	三〇	三、二五

十二年	三五七	一五七二	四五六	三、三四
十三年	二一〇	一八八七	四五〇	三、六四

收穫高と市價

	反當收穫		一石代金
大豆	〇、八 石		九圓
小麥	〇、六		一八
燕麥	一、二		五
大麥	〇、九		三
包米	一、〇		六
粟	一、〇		五
黍	〇、六		五、五
菜種	〇、六		七
小豆	〇、六		八
水稻	三、五		六、六四

籾四分止り　四、〇〇トナル

別に大麻反當百斤

豚　二十頭　（一頭二十圓）

羊毛三十頭　（一頭　二圓）

小作は一町歩約二十圓、現下には排水、造林、家畜、品種改良及建築に向ひつゝある。

乙　第六次南五道岡村（長野村）概況（昭和十二年移住）

長野縣下伊那郡の小野村より分村せる二十八世帶、上伊那郡の南向村より分村せる二十三世帶をはじめ、長野縣の集團移民入植二百九十三戸人口三百、平均年齢三十歳。治安良好何等被害なし。先遣隊は昭和十二年六月に入植、本隊は同年十一月より十三年三月にわたり入植す、目下家族招致中。地積七千五百町歩可耕地三千町歩

一、建築概況

建物名	本部	部落	建坪
共同宿舍	三	三	三〇
個人家屋	三	三〇	一三
病院	一	九月中旬完成豫定	一〇三
本部	一	本年度小學校ニ充當ス	七〇
農產加工場	一	九月中旬完成豫定	八六

穀物加工場	一	九月中旬完成豫定	六五
鍛冶工場	一		四〇
蹄鐵鍛工場	一		四〇
木工場	一	家具建具	四〇
倉庫	七	10	四〇
炊事、浴場	一	10	一三
假病舍	一	10	三五
假本部病院	一	後ニ共同宿舍ニ充ツ	三〇
			三〇

二、教育關係

學齡兒童數	十三年秋ヨリ六〇名	十四年秋ヨリ一一〇名
教師	十三年度秋ヨリ三名	十四年秋ヨリ五名
校舍其他設備狀況	本年度假校舍十四年度建築ノ豫定	
通學狀況	寄宿セシム	

三、畜生關係

假病院十二年八月より開院（本年度中ニ本建築の豫定）十二年度患者數

種別	患者數
神經系疾患	五〇
循環器	三
外科	三〇
耳鼻咽喉科	四
皮膚	八
傳染病	四〇
消化器系アミーバ	三六

四、作物及作付面積

昭和十三年度

種別	作付面積	豫想收穫高
蔬菜	三、〇〇町	不良
水稻	三〇〇〇	六〇〇石
大豆	八〇〇〇	八〇〇石
大麥	三〇〇〇	四三〇石
小麥	二〇〇〇	二〇〇石
蕎麥	四〇〇〇	八〇〇石

備考

種別	作付面積	豫想收穫高
高粱	八〇〇町	九六石
粟	三〇〇〇	一六六石
玉蜀黍	一〇〇〇	一〇〇石
小黍	二〇〇〇	三〇石
大豆	四〇〇〇	四三石
綠豆	四〇〇〇	四〇石

馬鈴薯	一〇、〇〇	三〇、〇〇〇貫	蕎麥	三、〇〇 七五石
ルーサン	二、〇〇		大麻	一、〇〇

五、家畜飼養狀況

種別	性別	頭數	備
役馬	牡	五七	八三內仔二鬃系馬一〇
〃	牝	二六	
役牛	朝鮮牝	一五	四二內仔牝二、牡二
〃	牝	二七	
〃	滿牛牡	一	
山羊	牡	六	二九內仔牝八牡六
〃	牝	二三	
豚	牡	三	改良
〃	牝	三七	四〇
雞	在來雌	一七	
〃	雄	一	三八
〃	雛	二〇	

密峰　イタリアン　三三

第十四、密山から林口へ

圖們線以東、殊に密山線には國境氣分が溢れてゐる。この方面は乘り降りの乘客も、寫眞をつけた身分證明書の携帶を必要とする。所によれば、汽車の窓のカーテンを下してしまふ。到るところ警戒がものゝ〳〵しい。地圖を見ても判るが、密山線はところによりて國境から彈を射てば線路を越えて來る位の距離になつてゐる。ソ聯の方からも鐵道は直角に國境まで敷かれてある。時間が許したならば、密山から興凱湖岸まで見物に行きたいと思つたのであるが、雨上りで道がぬかるむ、時間の都合上これは中止した。

ソ聯は今や西部國境でも波蘭と境を接するあたりは、五キロ位はすつかりクリアーして無人地帶とし、ゲーペーウーがトーチカの近邊をうろついてゐるといふ事である。沿海州の國境もすつかりクリヤーされてる。ソ聯內に住みし鮮人も滿人も皆中央アジアまですしづめで運んでしまつてるといふ。丸で

氣狂ひじみた警戒振りである。それだけにこの方面は單純な移民といふ問題のほかに、一朝有事の際を考へると、そこに幾多の意義があると思はれる。同時にこの方面には、良質な石炭層が無限にひろがつてゐる。第四次移民村の一なる哈達河の邊り一帶は炭礦地帶であるが、これがずつと虎林の方から沿海州にまでつながつてゐるらしい。埋藏量四十億噸といはれてゐるが、何程あるか、どこからどこまでの事かとにかく炭層も地表から餘り深くないといふことであるから、移民もこの方面はところによりては他に轉住しなければならないことになるかも知れない。

密山から林口まで引かへす。林口からは龍爪の移民村は街はづれにつながつてる。龍爪移民村についても資料も手に入れた、團長よりの巨細の説明もあつたが省略する。一言すべきは龍爪移民村と鐵路をへだてゝ東亜綿羊協會の龍爪牧場がある。場長田村一郎君の説明によれば牧場は一萬町歩にわたり、熊もある狼もある虎もある。内三千町歩が牧場で、そこに二千八百頭飼養されてる。一年に一割は死ぬ、一割は淘汰する。それで一割五分から二割増加する。コリデール種で移民村には既に七百頭分與した。今年中には更に千六百頭分與するはずだといふ。これは無料で十年間に同じ數だけ返せばよいといふ條件になつてゐる。尤もこの方面の牧畜といつても、非常に惡疫が多いし、害蟲も多いので、餘程弱りもするし病死もするが、これも先程の濕地といふ問題を解決すると餘程その不利が取り除かれると思ふ。とにかく北滿でかうした牧場の成り立ちし事は大きな福音である。

こゝは北滿羊の龍爪

昔しや匪賊のその巣でも
今ぢや五族の樂天地

これは田村場長の作であるが、事實内地人二十八人、朝鮮人四人、滿洲人七十一人、ロシア人三十五人、蒙古人一人、之に小作人として朝鮮人百人、滿洲人三百五十人が飼料をつくつてる。羊にかゝつてるのは五十人、あとは事務處や伐木などに從事してる。土地の言葉が分らぬと十人かゝつても二三人しか使へない。言葉が自由なら一人で五人使へる。どし〳〵言葉に習熟さしてゐるといふ事である。

第十五、青少年義勇隊

集團移民の方はこの位にして、次に青少年義勇隊訓練所の問題に觸れてみたい。青少年義勇隊の議の起りしは、次の如き宣言の一端によりてうかゞはれる。曰く

日滿兩國ならびに周邊の情勢に鑑るに、滿洲移民の大量且つ急速なる入植の急務たるを見るべく、之を充つるには從來の壯年移民の外更に青少年移民の實施を可なりとす。純眞素朴、若き源泉たる青

少年を陶冶鍛錬し、內建國の精神を把握せしめ外滿洲の氣候風土に馴致し、滿洲開拓の具現者たるの素地を培ふに於ては、移民の本義實踐は期して俟つべし。

とある。この青少年移民の試みは、早く三江省饒河に試みられつゝあつた事は、さきに東宮大佐の折にも話した如くである。政府負擔の經費も青少年の場合は一人に對し平均二百五十圓、今次十三年度に開設せんとする大訓練所收容人員五萬人に對しても一千二百五十萬圓を以て支辨されるのである。

青少年は十六歲乃至十九歲とし、內地では茨城友部に近き內原にて二ケ月の編成訓練を受くるを例とし、入滿して約三年、當初は五大訓練所に入所する。一ケ所定員は一萬人、本部と五大隊、大隊は又本部と六個中隊とし、中隊三百三十名を訓練の單位とし、一訓練所に農耕地二萬町步と牧野薪炭林を附屬せしめる。此地に一年の訓練を終へてより、既設移民團、鐵路沿線等々に分散配置される豫定である。

五個所の青年訓練所とは嫩江の伊拉哈、黑河線の孫吳、同じく鐵驪、林口の北なる勃利、牡丹江の南なる寧安、この五ケ所にある。私の出かけたのは黑河線の鐵驪である。瑞穗村を朝立つて克音河から綏化へそれから今佳木斯へむけ起工中の支線に移り、慶源を經て鐵驪に着いたのである。鐵驪は縣城の所在地であるが、縣內の人口約一萬二千人位にすぎない。しかし縣城所在地には今日本の在鄕軍人が三百名近くも居る。山の方へ伐木に行つてゐる連中や佳木斯の方への鐵道の工事をやつてゐる連中などが二三千人もあるとかいふので、小學校もあり料理店もあり、國防婦人もあり酌婦もあり、此の縣城には守備隊がある。

守備隊の干泥中隊長は非常に移民事業に熱心な人で、青年訓練所のために、一方ならず力添へをしてくれてゐる。我々二十名近い一行も中隊長の晩餐に招かれ、宿舍の一部に泊りもし、その熱心な移民談を早朝出立間際まで聽いたのであつた。

今餞驪の訓練所には約二千四百人許りの青年が居る。その武裝した一部隊、小學校の生徒、國防婦人會、愛國婦人會の婦人連、それから縣の縣令から官民有志、殆ど縣民總出にて迎へられた時には、我我一行も何んといつてよいか、萬感交々到つて胸が一杯になり涙ぐんで詞も出なかつた。

第十六、青少年訓練所是非

この青少年訓練所についていは一部非難の聲があり、まだ越年の家屋の用意が出來てゐないのに、あまり早急に連れて來て、子供達はどうして冬越をするのだとか、或は衞生設備が惡いために子供達が赤痢に罹つて何人死んだ、實に可哀相だとかいふ聲を聞いたのである。しかし鐵驪の實地に臨んで見ると、數ある中に不注意に生水をのむ、生物を口にしアミーバ赤痢に罹つたものもある、死んだものもある。

又私共が行つた九月中旬には現に家屋を建てゝゐる眞最中であるが、十月一杯には皆出來上るといふ事であつた。又、中には落ちつかなくて脱走した少年があるといふ。それは待遇問題よりも北滿の新天地に出かけた子供には大體一ケ月か二ケ月位になるとホームシツクの起るのも無理からぬ。それから三ケ月四ケ月たつと段々落ち着いて來る。いづれにしても二千餘人の中には脱走者もありうる。多くは遁げ出して又かへつてくるさうであるが、時には寢小便のくせがあり、本人が居たたまれずに飛び出したといふのもある。さういふ癖のある者を送り出したのが悪いのである。

私は歸京後宇都宮や甲府に移民奬勵の講演に行つた時にも、青少年を出すのはいゝが、手もとにおいておくと厄介だからと、不向きなものを送り出すのでは困る。本人ばかりでない少年全體の團體生活にいろ〳〵故障を來たす。合格したよい分子を出して呉れなくてはいけないといふことを申して置いたやうな次第である。

兎角僅かな例でも事々しく傳へられるものであるから、之らも暫だけで判斷せずに實地に臨んで事情をお聽取下さることを希望する。もちろん初めての試みであるから、集團移民の初期の例に徵しても、多少の缺陷のありうる事は想像に難くない。又五ケ所のうち鐵驪が地境その他に於て最も惠まれてゐる。尤も非難の少ないところかも知れない。いづれにしても此最初の試みが幾多のよい手本をつくつてくれる事となり、又少くとも一度建物其の他の設備が出來上れば、その次の年からは非常にらくになるにちがひない。集團移民の場合の事を思へば比較的成績良好なりといふを憚らない。

現に鐵驪には既に病院も出來てゐるが、さらに相手が青少年であるから、各宿舍に一二人のおばさんが居つて、おふくろ代り姉代りに子供達の面倒を見てくれるとよいと思ふ。之は誰しも直感する事で、今内地でもさうした婦人たちの養成にもかゝつてる。幸に出征された遺族などの中からさうしたおばさんが出かけてくれたならばとも思ふてる。

(青少年義勇軍十四年度の計畫につき追記)滿洲移植民に關する拓務省の十四年度豫算は臨時部に於て新に

指導監督費	10	單位萬圓
集團移民費	九七八	
青少年移民費	一、三二七	
移住奬勵費	三五	
移住地事情紹介費	一七	
其他	四五	
計	二、三二四	

を計上されてある。その中で集團移民費の增加は十三年度の六千戸が一萬三千戸となるからであり。又青少年訓練所に多額を見る事になつたのは、小訓練所の增設及び大訓練所中孫吳、嫩江、寧安の三所は小訓練所に改組し、珠河、大石頭、河子に大訓練所を設ける。最初の一年は大訓練に次の二ケ年は小訓

練所に配屬することゝする。その大小訓練所ならびに病院療養所等の增設及び改組の費用と、榮養保健施設を改善するため、食費一人當り一ケ月八圓を十三圓に增加する。靑少年の補助金は初年度一ケ月十五圓、二年度十二圓、三年度十圓と支給され、滿洲國政府よりも之と同額の補助を支給される事になつたから、兩者合計八百八十八萬圓に計上せられる。從つて今後著しく改善の實があげられる事と思ふ。

第十七、自由移民の內容

話は壯年移民に戻つて、集團移民の外に自由移民がある。この自由移民には集團移民の緣故を賴つて來た者もあり、滿洲の林業のため滿洲の林野局の取扱にかゝる林業移民といふのがあり、又煙草を作るための移民がある。更に滿洲鐵道總局の取扱にかゝる鐵道自警村など、種々雜多の移民がある。統計的にその概況を滿拓公社の報告より抄錄する。

一、戶口關係

集團移民より構成戶數少なし昭和十三年四月現在に於ける各種自由移民の戶口狀態竝に移民團構成戶數は次の如くである。

	團體數	戶數 總數	戶數 割合	人口 總數	人口 割合	一團體構成戶數
林業移民	四	三〇六戶	三%	一、一八五人	三四%	三六—一〇四戶
鐵道自警村移民	三三	四二四	二九	八九一	二五	一〇—三〇
滿拓取扱移民	二一	七一四	四九	一、四六九	四一	八—八九
計	四八	一、四四四	一〇〇	三、五四五	一〇〇	—

緣故移民、勞務者移民、少年移民を除く。

二、地方別入植團體數及戶數

自由移民入植地の地方別分布を省別に見るに吉林省、濱江省、牡丹江省に最も多く其の過半數が入植し、又集團移民の北滿に偏するに比し、全滿に散在してゐる。

	團體數 林業移民	團體數 鐵道自警村移民	團體數 滿拓取扱移民	團體數 計	戶數 總數	戶數 割合	人口 總數	人口 割合
吉林省	—	六	一〇	一六	四二一戶	二八%	八三六	二三%
濱江省	—	六	四	一〇	二三五	一八	六六九	一九

牡丹江省	一	三	一	五	一八三	一三	六三三
間島省	二	一	一	二	一〇六	七	二九三
三江省	一	一	一	二	一八一	一三	五〇五
龍江省	一	五	一	五	一〇二	六	二一
奉天省	一	一	一	二	三九	三	九七
錦州省	一	二	一	二	三五	三	七八
興安南省	一	一	一	一	五〇	三	八三
興安北省	一	一	二	二	五五	四	六六
新京特別市	一	一	一	一	二七	二	七四
計	四	三五	三	四八	一、四四四	100	三、五四五
	一八	二	六	一〇	八	二	二
	100						

三、團體構成關係

自由移民構成狀態を出身縣、除隊兵、敎化團體を標準として分類すれば次の如くである。

（一）同縣出身團體（全自由移民戸數の五一％）

林業移民　二道溝、三岔口（以上秋田）仙洞、古城鎭（以上青森）

鐵道自警村移民　泡子（長野）四家房（宮城）白家、訥河（以上山形）五家房（群馬）

滿拓取扱移民　白山子、江蜜蜂、雙河鎭、水曲柳（以上長野）新潟、高知、桃山（樺太）東豐（青森）北海道、松蔭村（山口）

（二）敎化團體關係

滿拓取扱移民天理村、一裸樹、鏡泊學園、松蔭村、大和村

（三）除隊兵を中心とする團體

鐵道自警村移民　女兒河、黑山頭、口前、綏化、泰安、白城子、蛟河、小城、山市、雙城堡、安達、龍鎭、柴岡

滿拓取扱移民　大黑山、隼入村、呼倫貝爾

四、營農關係

作付面積竝に家畜數（昭和十二年度）

	作付面積			馬			牛		
	總數	一戸當		總數	一戸當		總數	一戸當	
林業移民	二七・七	〇・九	町	三一	〇・一	頭	二	—	頭
鐵道自警村移民	二、五三四・〇	六・〇		四五六	一・〇		一二五	〇・二	
滿拓取扱移民	二、六〇〇・〇	七・〇		三〇二	〇・四		二〇四	〇・三	

五、福祉施設

自由移民は概して少數の集團なるを以て小學校又は病院の如きも成る可く附近に於ける既設のものを利用することゝし多くは獨立の施設を經營するに至らざるも、其の内に在つて病院を備ふるものに天理村、三岔口、仙洞の各移民團あり、小學校を開設せるものは林業移民に四校、滿拓取扱移民に三校ある。

第十八、鐵路自警村と天照村

以上概況を述べた中から滿拓公社の創設以前に進出せるものとしては、鐵路自警村と天照村と天理村などがある。

鐵路自警村はその名の示す如く鐵路の警備を目的とする農村である。滿洲の國鐵は既に八千キロに近い鹿兒島青森間を三回位走る事になる。それで先づ沿線各五キロに帶狀地帶にある約六百萬人の滿人を以て三千百六十二ケ村（十一年現在）の鐵路警護村を組織し、滿人を主體に鐵路警護と交通の萬全をはかる事になつた。

此滿人の警護村に對し、鐵路自衛の立場から日滿軍警と聯絡をとり、鐵道警備に當り、傍ら農耕牧畜に從ふ、いはゞ屯田兵式に銃と鍬を持つた日本人の自警村が編成される事となつた。主として皇軍駐滿部隊の除隊兵中から嚴選し、入村せる者には一家に三町歩の耕地と住宅及び家畜が貸與され、農具種子などは無償で給與され補助される。入村後五年間は自足自活困難と見て毎月生活費の補助をして、その額が年々減少され、四年目からは一戸當り十町歩となり、六年目から補助が無くなり、十年目に成績よきものにはそれらの土地建物等一切を無償にて讓渡する仕組になつてゐる。

自警村は十戸を一單位として沿線より一キロ以内の地點に營まれ、最初三年間は三日に一日づつ驛又は列車内の勤務に服し、四年目五年目は十日に一日、六年目から十年目までは一朝有事の時だけ非常勤務につく事になつてゐる。

自警村は昭和十年より開始され、次の如き徑路を踏んでゐる。

	村數	戸數	人口
昭和十年	六	七一	二三三
〃 十一年	七	一三五	三六二
〃 十二年	一〇	二四八	六三九
〃 十三年四月現在計	三五	四五四	一二三四

いづれにしても除隊後の在郷軍人が結婚して自警村に入るのであるから、元氣はつらつとして、元氣一杯で活躍してる。公主嶺農業實習所を出た人たちの指導の下に、水田もつくつてるし、生産品を市場に賣り出しもしてゐる。滿人と同じく高粱や饅頭を常食してるのもある。その全線路に行きわたり、鐵道の警備にあたつてるといふところに特異性がある。

教化團體關係としては天照村と天理村とがある。天理園には親しく觀察する時間が無かつたので、記錄や話を耳にせるところにより大要を紹介する。

天照村は他の移民村と異なり、西南部の蒙古地方に近い荒原、鄭家屯から通遼への沿線、錢家店驛から東北八キロの一裸樹といふ部落にある。人口一千五百人にも足らぬ滿蒙人雜居の寒村に、約百名の天照村移民が新天地に鍬をおろしつゝある。

天照村は東京深川の社會事業團體天照園の國主小坂凡庸夫氏の個人經營である。昭和七年三十七名の失業者は關東洲馬家屯なる同園經營の移民實習所に一年間實習の後、八年三月二十八名の卒業生が天照村に、現在の滿鮮拓植の前身東亞勸業會社より、七十二町歩の土地と一年間の農耕資金約二千圓をかりうけ、小作人といふ形で入植したのである。

本來第二次二十七名、第三次二十七名、第四次十三名と入植し、落伍者を差引き既に百名を越えてゐる。此地方は札幌と同じ緯度であるが、多期零度以下三十二度に下り、雨量は五〇〇ミリ內外で札幌の半に達せず、夏强雨があり風も强く、蒙古の風土として他の移民村より不利な條件が多い。

それで牧畜方面に力を注ぎ、今はいづれも一人當り十六町歩の耕地を擔當し、相當の成績をあぐるに至つてるが、大部分獨身者であるから、一部を滿人などに小作さするにしても全面積の開拓は手にあまつてる。せめてみな妻帶者とならばと思ふが、失業者であつたといふ事が邪魔になつて嫁になり手が少くつて困つてるといふ事である。こゝまで艱苦を堪へ凌いで根をおろした立派な試驗濟の成功者たちである。どうか家庭をつくらしてやりたいといふのが多くの人たちの聲であつた。

第十九、天理村の一夜

天理村は天照村とちがつて北滿の中心哈爾濱の東々北二十キロの地點なる濱江省阿城縣第三區に千三百四十二町歩の面積を占めてゐる。內、畑八百六十八町歩、荒地四百五十三町歩、宅地二十町ヅ、墓地一町歩となつてゐる。

昭和六年九月滿洲事變勃發と共に大陸進出とその生命線確保の爲、天理教青年會は滿洲移民計畫を樹立し、幾多の徑路を經て、哈爾濱郊外阿什河左岸地域七千五百町歩の買入れにかゝつたが、土地の買收

が困難で、遂に一切を東亞勸業會社に引繼ぎ、更に同河右岸の同會社買收中の地區中千三百餘町の分讓をうけ、九年十一月に第一次四十三戸二百四名、十年十月に第二次十九戸百十五名の入植を見る事となつた。

天理教青年會は會員三十五萬人一人一年一圓の會費を出してる。丹波市の天理教館も圖書館も外國語學校も印刷所も青年會の經營にかゝるもので、海外發展に多大の關心を持つてゐる。それで今次の移民計畫には次の條件を備へてる事を聲明してる。

一、宗教的信念によりて團結せるものなる事
二、全家族をあげて同時に移住するものなる事
三、移民地が大部分熟地なる事
四、大なる消費地を近距離に有する事
五、交通比較的便利なる事
六、治安稍確保されたる土地なる事
七、移住者の集團生活に所要の住宅、公共營造物等一切を入植前に準備する事

天理村の治安も今は全く安全であり、さらに哈爾濱の次驛三裸樹驛からほど遠からぬ地點より、約二十五萬圓を投じて天理村まで軌道が布かれ、ガソリンカーが運轉してる。朝の便で蔬菜果物類が哈爾濱の市場におくられる。天理の法被を着た村民たちが街頭の立賣りもしてる。

記憶ちがひがあるかも知れないが、この村民の所要經費は

一、家屋一戸	七一一圓
二、土地十町歩	一、二〇〇圓
三、農具類	四〇〇圓
内馬一頭	一五〇圓
四、入村一年間取入れを見るまで一戸五人の食費	三六〇圓

などが主であり、東拓からは二十年賦年利四分五厘のなしくづしになつてるが之に對して

食費	三六〇圓
農業資金	二〇〇乃至四〇〇圓
年賦償還金	一六五圓

の經常費に對し

蔬菜一町歩收入	四〇〇乃至五〇〇圓
純益	三〇〇圓
滿洲人への九町歩の小作料	
馬匹種子資金貸與	
此半額	三〇〇圓

副業及畜産收入　二〇〇圓
果樹及び加工收入　二〇〇圓

の收入があり、殊に現狀は軍部へ納入する澤庵漬の註文に忙殺されてる。

治安には自警團あり、在鄕軍人分會あり、防護團あり、圖書館、旅館、工場、倉庫、厩舍等あり。小學校は尋常高等に生徒七十名、診療所には女醫一名看護婦一名、之には內地人よりも附近小作の滿洲人が多く治療をうけて居り、生琉里と名づけられたる敎會は巍然として北滿のはて知らぬ廣野の中に聳えてゐる。

此程の水害で天理村への軌道が今不通になつてゐる。そこへ僕の行程がつまつてるので、哈爾濱の郊外といひながら、天理村へ出かける時間が無い。九月十六日朝早く鐵驢をあとに哈爾濱についたのが午後五時であつた。軌道のガソリン・カーは不通であるが、ハンドカーがあるから不自由を忍んでくだされば案內をしたい。そして翌朝六時頃天理村を出發すれば八時半哈爾濱發葦河の朝鮮人部落行きの列車に間に合ふといふのである。少々無理をしても此機會を外してはと、二十名近い鐵驢視察の一行から、私が只ひとりになり、天理の法被を着た村人の案內で天理村へ出かける事となる。

ところが手違ひでハンドカーが無い。村人の手押して二十キロの天理村に向ふ。その道中に見ず知らずのクーニヤン（田舍の娘）と同乘したりして午後八時すぎの闇夜に天理村につく。すぐ敎會のお神樂に列し、同夜は天理村の旅館に一泊。翌朝のハンドカーでハルビンへかけつけたのだが、さうした數々

の挿話は別の機會にゆづる。只その法被を着た案內の村人、靴を脫いで足袋はだしで臺車を手押してくれたのが、天理村の農務主任宇都宮高等農林學校卒業の只野整助君である事だけは筆しておく。

私は只野君によりても信仰の力の偉大なるものあるを見たのであるが、そこには狂信者たちの不退轉の布敎の活動がある。天理村と哈爾濱との間にも土匪村がある。かつては危害を加へられたこともある。その奧地に賓縣といふ所があるが、それから猶十里、二十里と奧の方へ天理村から布敎に入つてゐる。さうした人たちの涙ぐましい金剛不壞の信仰の力の動きについては別に筆にする事がある。こゝには滿洲人の心の底に立ち入りて、旣に五百人近い天理の信者ができてゐるといふ事と、さうした布敎傳道のため單身滿洲部落に入つてるさうした人たちの名前を錄しておくに止める。新田石太郎氏(四十五歲)、藤田秀政氏(三十七歲)、同すゑ女。

第二十、北京の天理敎

序だから申上げるが、北京の崇文門內東四牌樓大街に面した所に、天理敎敎會の看板とならんで崇文

幼稚園の看板がかゝつてゐる。そこには佐藤軍紀さんとその夫人の玉榮さんと天理教信者の夫妻が布教に從事してる。十年ほど前から月三十圓の支給をうけて北京に下宿住ひをし、支那人の中に入つて、支那人の生活風俗言語等の研究に沒頭しつゝあつたが、扨て傳道の方法が見つからぬ。そこで同仁病院その他の病院の表に立つて藥瓶を下げて出て來る病人に呼びかけて、所謂天理教の術語でいふ「にほひかけ」をやり、病人にお蔭を與へてその病人の宣傳で次々と新らしい層に入り込んで行つたさうであるが、次第に地盤を固めて今日の教會にまでつくりあげた。抗日排日の空氣が盛になつた時分にはかなり壓迫をうけ、教會の前に巡査が立番して、市民の信者の門に入るのを追ひ返して入れなかつた事もあつたさうである。

しかし、根氣好く傳道につとめて、今では約五百人位の信者を作つてゐる。しかも私の行つたのは九月の三十日であつたが、信者の總代が三人見えてゐた。教務主任莫震盈、外交主任張躍峰、準承事張彭年の諸君で、どれもこれも若いインテリである。張彭年君は通州に分教所を拵へて自分がその所長になつてゐる。

それから三年前から始めた日語研究會は、既に千五百人の卒業生を出し、今年の五月から居留日本人の希望により邦人の幼稚園を初め、既に約七十名の兒童が通つてゐる。此の幼稚園に北京の支那人の信徒が自分たちの子供も入園さしたいといつてゐるが、內地人の子供との關係、それへさらに朝鮮人の子供たちの問題等にからんでまだ解決できずにゐる。かういふことを申すのは、此の場合に限らず、移民の

場合にも、いつも教育につきいろ〳〵の問題が起るといふ事の一例として參考にしていたゞきたいからである。

同じく北京の安定門內に羽仁もと子さんが生活學院といふのを拵へてゐる。私は學院をたづね、猶その近くの下鑾胡同と申す處に昭心傳導處といふ看板をかゝげ、今川姓の四十歳と二十九歳の姉妹が何れも處女であるが、二人で支那服を着て天理教を布教し、入十人程信者を拵へてゐる。初めの二年位は天理教の本部から月十圓位貰つたが、後は貰はずにやつてゐるとの事である。

天理教の教義については兎角の批評がある、意見もある。私は別に天理教に何等の因緣も持つてゐないから、こゝに天理教そのものにつき論談しようとも思はない。只これら土地の人たちに布教に挺身してる人々の直話では、皆初めから支那へ布教する宿願を持つてゐた。それで天理教本部なる丹波市の外國語學校に入學し、專心支那語を習つたといふ事を聞いて、これあるかなと思つた。その土地の言葉によりてその土地の人の心に觸れて行くといふ點では、日本の他の宗教よりは有意義に活動してるものと云はねばならない。どうか日本の他の宗教團體におかれても、先づその土地の詞に習熟する、さうした點に留意され、これが實現の上にその歩みをぐん〳〵と進めていたゞきたい。もし他の各宗派等にありても既に天理教徒以上に活動をつゞけてゐる事例があるのかも知れないが、あわたゞしい私の旅行中には耳にする暇が無かつた。どうかさうした事例の既に多かれかしと期待し、猶今後一層の活動を切望して止まない。

この春であつたが、新潟縣の佛敎聯合會の發會式に招かれて講演した節、新潟縣では一町村平均七箇寺にあたるので、寺の方の維持も相當困難のやうに聞き、且は新潟縣から對岸へ移民が進出中であつたので、臺灣在職中の經驗から割出して、佛敎徒諸君の活躍を希望し、對岸への移住に參加せられるよう希望を述べた。

それも只法要とか葬儀に限られない、又檀家の寄進でお寺の創設維持をやるので無い。やはり移民の團體の一員となる。その代りに少しく割り當ても多くなる。小作人も使つてよい、滿洲人も可なりである。親しく農作の體驗も味ひ、布敎から敎育から醫藥などくさ〴〵の社會事業にまで相當に活動する。さすれば移民地も助かる、內地の方も助かる、さらに滿洲人の衆生濟度にまで手をのばしてほしいといふのであつた。

今手もとには外國の基督敎徒がいかに滿洲の全省に渡り布敎の外に孤兒院、養老院、醫院その他の事業にまで活動しつゝあるか、さうした資料もあるが、生憎にも佛敎徒の活動については資料を持つてゐない。しかし滿洲國建設後は必ずやそれ〴〵その步を進めつゝあるものと思ふ。天理敎猶然り況んや佛敎をや。どうか滿洲人への布敎濟度といふ上に、內地の佛敎及び基督敎關係方面の大きな關心と熱誠なる活躍を期待して止まざるものである。

第二十一、蒙彊の天主敎と滿洲の布敎

蒙疆の張家口にて聞くところによりても、田舍の村々に古くより天主敎が行き渡つてゐる。幸に軍隊の中にも天主敎の信者があつたので自然よく連絡がとれるやうになつてゐるといふ事であつた。さうした事で此程蒙疆方面の天主敎徒が日本を訪問する。之に對し日本の天主敎徒が答禮のため蒙古にやつてくる。丁度私共は宣化の驛で一行が土地の官民から歡迎をうけてゐるのを親しく見たが、兎に角布敎傳道といふ事は外國では最も根强い力として活動してゐるが、どうも日本の宗敎といふものは外國のやうに動いて居ない。同種同文だのいつてゝも頭から支那語を知らなさすぎては、何んの同文やといひ度なる。

之れも參考に申上げておくが、第三次の瑞穗村に不似合な本願寺のお寺がある。入植してから四、五年しか經たないのに、移民たちが二千圓の金をあつめて建てたお寺である。私には移民たちが建てたと聞くだけに少々形が立派すぎるやうに感じた。勿論本願寺の方で建てるにしても勿體ない事と思ふた。さうなると却て第一次彌榮村のお寺は極めて質素である。只普通の民家の一室に佛壇がしつらへられてあ

るだけである。それでふさはしい、結構だと思つた。お寺らしいお寺は猶將來の事であると思つた。住職は本願寺の本多賢純師であるが、本多師は自分で活動寫眞や紙芝居などを持つて、彌榮村の各部落を轉々廻つてゐる。老若男女教化に努めてる。之れから彌榮村にも滿人も次第に多く集つてくるであらう。本多師なら滿洲人にも直々傳道の效果をあげてゆく事と思はれる。

滿洲でも天主教は孤兒院や養老院、或は施療院などをやつてゐる。孤兒院だけでも十二ケ所に約二千人近い孤兒を收容してゐる。また千人近い老人を養老院に收容してゐる。幼稚園等の特殊な設備もしてゐる。日本からも宗教方面につきもう少し、いや、うんと土地の民衆に對して活動してほしいといふ感を禁じ得ない。

支那本土には天主教は三百五十年の歴史を有してゐる。全世界の人口の五分の一を占めてる天主教徒の中で、支那には約三百五十萬人の教徒があり、その約二百五十萬人は北支那にある。儒教も佛教も道教も今日では支那には只形骸をのこすのみである。お寺も朽ちはてるばかりである。孔子廟も人跡は絶えてゐる。名は道教の流れといへど、媽祖廟とか娘々廟とか次第に卑俗なる廟祠に、大衆はむらがりて銀紙を焚き線香をくすべてる。

支那では各宗教の横の連合といふ事と、それらの日支間の聯繫といふ計畫が進行されてゐるが、宗教界の協力聯繫といふ事は中々容易ならぬ事であり、それには布教傳道に慈惠醫藥その他あらゆる社會事業に教育施設に、インテリ階級に、廣く深く根をおろしてる基督教、特に天主教との協調といふ事は忘

れてはならぬと思ふ。

第二十二、滿洲の朝鮮移民

滿洲移民につき內地移民とならんで重要性を持つものは朝鮮移民である。

在滿朝鮮移民は昭和十一年には百萬人と稱せられてゐたから、今日はさらに相當突破してゐる事と思ふ。滿洲事變前後に於ては

◇事變前三ヶ年間

昭和二年末	五五八、二八〇人
同　五年末	六〇七、一一九
增加　計	四八、八三九
一年平均增加	一六、二七九

◇事變後三年間

昭和八年末	六七三、七九四
同十一年末	八八八、一八一
增加計	二一四、三八七
一年平均增加	七一、四六二

といふ數を示してる。事變前に於て既に在滿鮮人問題が幾多の事件を起した。萬寶山事件なども滿洲事變を促進した一つの因子である。それが滿洲事變以後となり、朝鮮人は我も日本人なりと大手を振つてなだれ込んで來たのであるから、矢張りそこに幾多の問題を起すことゝなる。今在滿の朝鮮人の生業別を見ると

全戸數	一七八、二三三戸
內譯	
農業	一三九、三三〇
日傭人	一〇、〇〇〇
商業	七、〇〇〇
官公吏	二、一〇〇
銀行會社員	二、〇〇〇
飲食店	一、三〇〇
數員	一、三〇〇
雜業	五、〇〇〇
無職	三、〇〇〇

となつてる。その日傭人も農繁期に農家に雇はれるのであるから、在滿朝鮮人は農民といつてよい。しかも朝鮮人の水利に對する鑑識は眞に天才といふべく、苟くも水の流れあれば、その高低を目算して之を導き、到るところに水田をつくる。事變前の滿洲米百萬石といふも、實に朝鮮人の手になつたのである。我等北滿の旅に、これは朝鮮人の水田である、これは朝鮮人の手になる水路であるといふ地點を隨所に見て、その根强い拓植氣分を知つた事である。

近時滿洲の農民も水田に手を染めてゐるが、しかしその作付なり收穫步合なり、いまだ問題にならない。

	水田作付	粗收穫高	反當り
鮮農經營	一二三、九四二	二、五四五、四八二	二、三石
滿農經營	一四、六七一	三〇二、一九五	一、九〇

鮮農は少からぬ米の收穫をあげてゐるし、又それ〳〵相當な納稅もしてゐる。鐵嶺などでは、一戸當り二町三六を耕して平均四十二圓見當の負擔をしてる。さらに又近時鮮農の集結移住により統制と安定を保たしむる事となり、その結果間島省安圖縣の如き土匪の巢であつたところも、滿鮮拓植の手により

千四十二戸五千二百九十四人よりなる十三の鮮農部落をつくりしため今は平和村となつてる。同省汪清縣羅子溝の如きも、ソ滿國境に近く共匪の根據地であつたが、鮮農六部落六百戸の入植と日本軍隊の駐屯により、全然治安が回復されて來てゐる。さうした半面も知らねばならぬ。

第二十三、滿鮮拓植公司と倆不氣村

土匪横行時代には散在居住は取締がつかない、滿農にしてもとかく通匪の嫌が多くなる。だから鮮滿の別をとはず之を集結部落にし、土匪の危險あるところは土壁を以てめぐらし、共同防禦の實力をかため、一面取締の便を完うする事ができる。鮮民にしても統制がつき、滿農に對する集結工作は今日の土匪潛減の最も大きな原因になつてる。

朝鮮人の無統制振りは內地にても幾多問題を起すが、滿洲に於ても又しかりである。ことに滿洲では阿片密賣等により兎角の問題を起す事がある。此の如くにして鮮民が年々五萬人以上もなだれ込まれては統制がつかぬといふので、鮮農指導援助區域、集結指定區域、新規入植禁止區域と三ケ處に分ち、今

後一ケ年一萬戸を限り朝鮮總督府發行の移住證明書を所持する者に限り、自由移住を許す事になつてゐる。それで朝鮮總督府の協力の下に、滿洲國特殊法人たる滿鮮拓植公司が設立され、一面東亞勸業會社の事業を繼承し、鮮農の統制ならびに安定のための拓植事業として自作農創定を目標とし、土地の取得から資金の貸付、移民地の設備その他の附帶事業一切を行ふ事となつてゐる。猶少年移民の事例にならひ、最近朝鮮總督府は滿洲國政府と打合はせて內鮮人少年間の感情對立を防止する意味もかねて、明年度から約三千人の少年移民團を送り、內鮮一體少年の協力による新しき土の開發につとめる事になつたと傳へられてゐる。

私共の視察したリヤンプチー（倆不氣）の部落は、哈爾濱牡丹江間沿線葦河縣內で亮子嶺と亞布洛泥兩驛間の鐵路に沿ふてる。滿鮮拓植からは岡田猛馬君が案內され、葦河縣の里地副長はじめ葦河土地事務處長である鹿沿彰君により、詳細に案內され說明をうけた。

一言にしていへば部落の計畫、家屋の構造、村民の衣服調度など、同じ朝鮮人も、本國では隨分亂雜な汚ない貧しい生活をしてるのを見るが、この部落は實に統制がとれ、淸潔であり、村民はみな活々として働いてゐる。學校もある、病院もある。ことに此部落に沿海州から遁げて來た朝鮮人も居る…沿海州の鮮滿人は中央亞細亞へ追ひ立てられてしまつてる…その朝鮮人の生活振りである夫婦共稼ぎ、乳牛の飼養、雜物を飼料にしてる豚の箱入り…四圓とかで求めた豚はもう五十圓位の値打になつてる。箱一杯にふくれ上つてうめいてゐる…小庭の植樹、さては家內の調度防寒の設備など、村人にはよい見

本を示してゐる。

最近滿鮮拓植の移民概況

移民用土地及移民種類別

移民總戸數							一三、九八四戸
〃 人口							六〇、九八四人
外に 滿農戸數							二、五九〇戸
〃 人口							一五、〇五五人
內譯	戸數	面積	水田	畑	計	作付面積	
自作農創定契約地	二、六六六	九、二五五	六、三〇四	〇	六、三〇四		
自作農創定豫定地	八、〇八八	九二、七二九	五、三三三	一〇、一二七	一五、四六一		
小作地	二、二三〇		四、四九八	二、三八八	六、八八六		
	△二、五九〇	七〇、一一一	二〇	一七、八五七	一七、八五七		
計	一四、六六四	一七二、二二七	二一、一五六	三〇、三五三	五一、五一〇		

新移民及集結移民狀況

滿鮮拓植社創立後新ニ入植セルモノ及滿洲既住民統制ノ都合上集結セルモノ

	康德四年度		五年度		計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
朝鮮より新入植	二五三五	一三、三八	二、七九九	一四、一九八	五、三三四	二七、四二六
滿洲內の集結	一九三八	八、二七六	〇	〇	一、九三八	八、二七六
計	四四七三	二一、五〇四	二、七九九	一四、一九八	七、二七二	三五、七〇二

以上で移民村の現況につき大體話したが、猶日滿鮮を通じてのいろ〳〵のイデヰオロギー問題、平たくいへば各種の思想問題、ことに教育等にふれてお話せねばならぬ事も相當に多い。それらは問題が大分にデリケートにもなるので、さう簡單に片付けてしまふわけにも行かないから、こゝには省略する。

第二十四、健康地滿洲

最後に是非一言しておきたい事は、在滿邦人の健康問題、體位問題である。とにかく事實移民村では病人は少いのである。日本人が滿洲へ行くと健康には餘りよくない。事實軍隊も滿洲にゐる間はかなり

病人が出る。軍隊以外にありても內地人には病人が出るといふ。しかるに、その滿洲の北の北に新天地を開いてる者に病人は少いのである。天理敎の病院でも附近の滿洲人が來るのみで、村民は今一人も入院してゐないのだといふ話であつた。第三次の瑞穗村も醫者看護婦よりも產婆さんがとても忙しいといふ事は前にお話した。

前々から私は滿洲の健康問題に關心を持つてゐたが、陸軍の小泉軍醫局長の話では、小部隊で幾分共自由行動のとれるものはよいが、纏つてゐるところでは可成り規則だつた訓練がつゞく、しかも土地に馴れない、風土になじまない、そこに無理もあるといふ事であつた。鮮滿拓植の二宮中將の話では、初めの一多は用心するが次の多になつてからは氣候風土の變つてゐるのを忘れていつのまにか無理をする、寢室から同じ服裝のまゝで廊下に出る、便所に行く、さうしたやうな事がとかく病氣に取りつかれる機會をつくるといふ事であつた。いかにも滿洲では零下二十度、三十度といつても內地と違つて濕度が少いから左程冷たく感じない。つひ馬鹿にしてかゝる。それでつひしくじるので、風土に應じて注意すれば滿洲の方が却て健康地である。

滿洲は第一に晴天が多い。日本のやうに曇天雨天が多くない。晴天は東京に較べて一年に二倍以上、札幌の九倍である。北海道、東北、北陸、山陰のやうに曇天や雨雪が多くない。それだけ紫外線にめぐまれてる。

第二に風が少く、强くない。雨季の外雨が少い、空氣は乾燥してる。濕氣が少いから夏も蒸し熱くな

い。多もはるかに凌ぎやすい。だから滿洲では降雪が少く、至るところスケートはできるがスキー場に惠まれない。それだけに乾燥した空氣、紫外線量の豐富な空氣に惠まれてるので、呼吸器病の療養に適してゐる。北滿の地に水田ができるわけである。

私は奉天醫大に三浦運一博士を、又大連小平島の保養院に遠藤繁清博士をたづねて、いろ〳〵話も聞き、數多くの資料を手にした事であるが、日本人の病氣になるのは皆自ら求めて病氣になつてゐる。なによりも日本人は紫外線のありがた味を知らない。日光の尊さを知らない。さらに空氣の汚濁せる事がいかに有害であるかといふ事を知らない。清新なる空氣のいかに大事であるかといふ事を知らない。

多になると狹い部屋の隙間々々へ目張りしてしまふ。少しも空氣は流通しなくなる。しかも部屋の中は無闇に暖くする、いや熱くする。汚濁した空氣の中ですつかり皮膚も呼吸器も弱くしてしまふ。そして不用意のまゝ室外に出る、戶外に出る、忽ちにやられるのである。

第二十五、天惠の樂土滿洲

滿洲人でもいつも戸外の空氣に皮膚を馴れさせるといふ事を心得てる。哈爾濱あたりでは、ロシア人は天氣さへ好ければ眞冬でも毎日赤ん坊を外へつれ出して外氣にふれさすといふ。さらに大事な事は戸外における運動である、スポーツである。冬が近づく、眉をひそめるのはよくない。冬が近づく、待ちかねたと眉があがるやうにならなければならない。

滿洲の冬は長い、その冬を樂しみに待ちかねて戸外で運動をするといふやうにならなければ駄目である。スキーは降雪が少いから出來ないが、スケートは至るところでできる。滿洲國軍の最高顧問平林盛人少將を官舍にたづねて軍隊のスケート奬勵につき話し合つたが、少將はこの狹い庭で冬は私も子供達も皆スケートをやる、皆冬をまちかねてる、皆とても達者になつてゐるとの事であつた。植田軍司令官に面會の折にも司令官の方からスケート奬勵につきいろ〳〵と話があつた。

なるべく外出して清新な空氣を吸ふ、皮膚を強くする。又内にあるときはあまりあつくしない、それから必ず通風の設備をする事である。

三浦博士の滿洲の越年十二則は

一、寒さを恐れず戸外に出でよ

二、目張りを止め窓を開いて換氣せよ

三、掃除には茶がらで掃き出し窓を開け

四、換氣裝置を利用せよ

五、部屋の過熱は風邪の基

六、室内で炭火使ふな胸の毒

七、ペーチカは煙り漏さず熱活かせ

八、煤煙防止に努力せよ

九、新築の家は壁が乾いてから

十、女子の服裝は先づ防寒

十一、子供には薄着本位で加減せよ

十二、脂肪をとり野菜をたべて身を肥やせ

換氣採光、これは内地にありてもあまりに無關心である。それだけに北陸地方には呼吸器患者が多い。昨今北陸でもさうした點から家屋の建築につき、模樣替へにつき施設されつゝあるが、これは内地全般に於ても統制さるべきである。

之を要するにペンチレーションに注意すると共に滿洲の溫度は一日中でもかなり大きく上下する、いつも着物を調節する、あまり厚着しない、薄着しない。子供の時分から戸外に出て外氣に觸れ皮膚を鍛錬する。ことにスケートなどによりてうんと活力を增す。食物も土地に應じたものを食ふ。食事の衞生に留意する事である。

滿洲人は生水を飲まぬ、食物も煮たものを食ふやうにしてゐる。粗食に見えるが油で煮た菜ツ葉のや

うなものを食ふやうにしてゐる。日本人の精白米食よりずつと有效なのである。

さらに服裝としても日本の婦人服は到底滿洲向きでない。防寒からは日本服よりも洋服、又洋服よりも支那服がよい。とにかく裾をひら〳〵させて下駄ばきなどゝいふのは夏季に限られる。婦人服は冬季に於て特に改良せられねばならない。

ところで現狀では第三次の瑞穗村でも、大小便所は吹きさらしの屋外にある。之れでは冬の夜中にはとたづねたら、いやそれ程でもありませぬといふ。しかし實はそれ程どころでは無いのである。此點を注意して屋內に便器を設けておく、用便後は灰をかけておく、臭氣止めであり、凍らない。屋外の便所では用便する人の衞生問題もあり、何よりも排泄物が凍る、尖りて山をなすとあとの始末にも困るとの事である。

もう話もこゝまでくればおしまひである。これで私の話を止める。私は此度の旅行により

滿洲の風土に適從せよ

滿洲は內地より健康地なり

といふ信念を固め得た。私は安心して滿洲移民を今後ます〳〵口にし筆にする。さうしてそれが實に日清日露の兩役、滿洲支那の事變の結末をつけるものである。今までの尊い犧牲を意義づけるものであり、それが日本民族の將來の國策の根柢を形づくるものである。又それが眞に新しき東亞の建設に我々東亞

の民族の協力握手すべき要諦であるといふ事をくりかへして話を終ります。こゝに厚く各位の長らくの御淸聽を謝し、今後一層滿洲移民につき直接に間接に御援助あらん事を切望するものである。

滿洲移民國策の樹立

此の視察談は移民部落の現況と移民の經濟及び體位の問題を主として、現在の移民政策の實行に當りつゝある拓務省、滿洲移住協會、朝鮮總督府、鮮滿拓植公社、滿洲國政府、地方官憲、拓植委員會、滿洲拓植公社、協和會等について、その間の本事業進行の內容等についての說明批判は之を避けてある。それは直接一般民衆に周知せしむる要もなく、又既に實驗に鑑み改善の途上にあつたからである。現に昭和十四年一月七日、八日の兩日に亘り滿洲移民國策今後の根本方針を決定すべく、日滿鮮合同移民懇談會が各機關代表八十名出席の下に新京に於て開催された。

磯谷關東軍參謀長挨拶の後、片倉中佐によりて說明されし基本國策要綱は次の如くである。

基本國策の要綱

移民政策は東亞協同體の具現のため道義的新大陸政策の見地から東亞の安定を目的として、滿洲國における民族協和の達成國民組織の强化、產業開發の促進に併せて日本における人口、農村問題解決並に日滿不可分關係の强化を圖るため、日滿兩國において一貫不動の移民國策を樹立する事を根本理念とする。

◇

これがため移民政策の兩國分擔協力兩部門の責任分野を確立、同時に日滿を一體としてこの統制發展を期し、特に移民の訓練指導の二元化を排する。從つて日本側は移民の募集、訓練、送出し助成などについて合理的方法を講じ、官民一致協力して優良な移民の大量入植を行ふ

◇

滿洲國は拓殖事業の一元的措置をなし土地の取得配分、營業形態、移民の諸取引機關、內鮮人の入植現住滿農の補導などについて刷新的方法を講ぜしめ、入植用地の取得については濕地、アルカリ地帶、森林原野など尨大な未利用地の開發主義を確立しその整備は原則として國營とする。

◇

現住農民との關係は、全體に摩擦を避け、協和調整に努め已むを得ざるものゝ外は他に移住せしめない方針の下に、積極的保護に努める、移民及び之が爲移住した滿農に對しては納稅の減免、物納主義を併用して負擔の輕減を計り、義務工作制度の研究を行ふ。

◇

移民の生活樣式、敎育、宗敎、文化方面に對しては劃一的方策を排し、適地適應主義にする、特に靑少年移民は各種移民の基底として優良な靑少年の大量移住により、日滿不可分の理想國家建設に資する、これがため滿洲國政府は協和會日本側機關と協力し、强力なる指導統制機關を滿洲に設け、これによつて訓練を行ひ基礎、實務に分ちて訓練設備を設ける、內地における募集訓練から滿洲移住地に定着する迄一貫した指導精神と隊編成によつて訓練指導を爲し、同時に各民族を合せて協同訓練を與へ、移民と協和會との關係は移民に對して協和活動を促進し、現住の滿農との民族協和を圖り、又財政的負擔に就ては日滿不可分の原則に從つて物心兩方面とも負擔の均衡を圖る。

新京よりの通信はさらに次の如く報じてゐる。しばらく新聞紙に見るがまゝこゝに收錄するに止める。

今次の日滿移民懇談會に提出された現地側草案に見るも、移民國策の重大轉換を期してゐることは否定し難い事實で、今年度中における關係當局の本問題に對する動向は各方面より注視の的となつてゐる。卽ち土地制度に關する根本的檢討を初め、移民關係機關整備統合による多頭政治の弊害防止等は最も重大なるもので、滿拓改組問題の如きも、旣に開拓總局の新設に伴ふ土地收用事業の國營化によつて

514108

當然豫期されたところであつたが、その改組は今回の會議の成果の一としていよ〳〵必至となつたもの、と觀測されてゐる。かくて滿拓は土地收用事業を切り離される外、青少年移民の訓練は協和會の手で行ひ、更に移民地における各種農政の遂行は政府當局がこれを行ふため、結局移民訓練所及び保健衞生施設の經營等の如き事業のみが滿拓の手に殘されることゝなり、その事業範圍の縮小による滿拓經營の合理化は早急に實現するものと見られるに至つた。これと共に內鮮移民と現住民との三者の關係の調整並に入植等を一元的に取扱ふことゝなるべく滿拓、鮮拓の統合もまた不可避と見らるゝに至つた。

即ち會議に提示された滿洲國側素案につき、日滿各代表よりそれ〴〵異なつた立場から有益なる意見の開陳があつたが、特に

一、移民問題を中心として民族協和を如何に促進するか
一、協和會は移民に對して如何に働きかくべきか
一、東亞協同體における日本人移民の地位如何
一、現住農民と內鮮移民とを如何に調整すべきか
一、日滿拓政機關の有機的統合方法如何
一、土地制度の具體的運用方法如何

等の重要事項については各代表間に相當突つ込んだ討議が行はれ、今後における移民政策の綜合的確立に多大の效果を殘した。

さらに新聞紙は拓務省における對策として中堅幹部の指導、保姆、醫師、看護婦、產婆の大陸進出につき次の如く報じてる。

日滿鮮合同移民懇談會の席上、日滿兩國協力して一元的機能の發揮に全力を傾ける事に方針の決定を見たので、拓務省ではこの根本方針に基き、本年度は一般滿洲移民奬勵費を十三年度の十萬圓から十四、五萬圓に增額し、移民數も昨年度の二倍餘卽ち一萬二千戶の集團移民と三萬の靑少年義勇軍を移住せしめるほか、新に移民指導の中堅幹部となるべき二千名を大量養成、更に大陸の母、保姆五百名、醫師百名、看護婦產婆合計百名を大陸に送り、移民生活向上のためその訓練指導萬全に資する事になつた。

移民幹部は中等學校卒業以上の農村指導、又は敎育その他の實際經驗者を、全國各府縣地方長官の推薦によつて集め、茨城縣東茨城郡鯉淵村に新設の滿蒙開拓中央幹部訓練所で訓練するものであるが、第一回の五百名は來る二月二十日入所せしめ、數ケ月の訓練をして現地に送ることになつた。續いて四月以降隔月に募集養成するが、これと共に大陸の母となるべき保姆は四月に二百名、本年中に五百名を內原訓練所で訓練、これと併行して醫師百名、看護婦產婆百名を大陸に輸送、移民幹部中の小學訓導有資格者と協力、大陸第二世の出產から敎育、農業指導までの萬全に備へる事になつた。これと共に拓務省滿洲移住協會では移民事情と移民奬勵に全力をあげ、兎角引込思案勝ちの家庭女性層に呼びかけ大童の活動を開始する事になつた。

跋に代へて

第三次瑞穂村の林團長から、はや霜はおりそめた、村民は前途の希望にみちていそしんでゐる、といふ便りがある。

茨城友部在なる內原の靑少年義勇軍訓練所からは、近く又後續隊が出發するといふ通知がある。千歱ケ谷の聖和學苑からは、現地訓練所に配屬さるべき保姆の入所式の通知がある。

近頃各地では分村式移住の計畫も進んでゐる。さらに農業に限らず商工移民の進出についてもいろいろ考へられてゐる。さうした各方面にわたり精神的肉體的の敎育試練といふ事に想到すれば、現地への醫師、看護婦、保姆ことに敎員についての補充といふ事が急務であり、しかもさうした人たちにはいづれも移民たちに强い朗かな氣分をつぎ込む事につき深く期待される。

今や內地でも敎育審議會に於て師範敎育制の充實につき論議されてる。內地に於ても先生の不足をつげる、さらに朝鮮は一層敎育の普及をはかる事となり、滿洲も內地人の移住の增加又現地敎育制度の普及を計るに伴ひ、一年千名以上の補充を要するといふ。

日本民族が活動すべき間口は一時に擴大されてる。あらゆる方面に人を要する時代となつた。しかも內も內であるが外の第一線にはより優秀なる人たちを要求する。ことに移民地に於てしかりである。學

問も大事である。しかし何よりも心身の强い者を仕上げねばならない。多がまちかねて校庭のスケートに兒童と手をつないで、汗に光る敎員を要求する。

日本民族は滿洲に進出した。しかしそれが引潮になるやうな事になつては大變である。水の低きにつくが如き勢を馴致せしめねばならない。それは一にかゝりて精神と肉體の訓練にある。

（十一月十八日記）

移民村をめぐりて

黑河線を北へ瑞穗村へ

三里にして家少しあり五里にして村いまだ見えずはてなき曠野
ハルビンをあしたに立ちて我が汽車の夕となれどたゞ粟と豆畑を
地平線に夕日は落ちて肌寒し秣切る音もいつか止みけり
シベリアにつゞく曠野の眞夜中に野にいばりすれば北斗は近し

鐵驪青年義勇隊

北滿の秋澄みわたり義勇隊の銃劍の刄先きらに光るも

密山在信濃村へ

老いたるは道のへに休み幼きは草むらに入れり雉子飛び立つ

密山の旅館

新開の町の旅寢に夜は明けて隣りを見れば「朝鮮旅館」

ハルビン（四十年前の旅をしのびて）

うや〳〵しくホテルの玄關に侍立せり見るから大きな白系露人
薪を焚く汽罐車の鉦のゆるやかにガラン〳〵と鳴りし思ひ出

ハルビン郊外天理村へ

天理村へ我を送るとトロに乘せてあと押す友の額に光る汗

第二次千振村

移民入り土民あつまり北滿の人無かりし野邊に百貨店建ちぬ
馬車は泥田の如きぬかるみにいたくかしげどもくつがへらざる
地平線に日はさしのぼり村人が千振りの鍬の刃先光りつ

朝日東亞リポート（2）
滿洲移民
昭和十四年二月十五日印刷
昭和十四年二月二十日發行
定價三十錢
編輯人 東京朝日新聞社東亞調査部編輯委員會 代表 大西齋
發行人 東京市麹町區有楽町二丁目三番地 東京朝日新聞社 比佐友香
印刷人 東京市小石川區久堅町一〇八番地共同印刷株式會社 大橋光吉
發賣所 東京丸の内 大阪中の島 朝日新聞社
不許複製

●好評の最新刊●

朝日東亞リポート(1) 香港と海南島 定價三十錢（送料六錢）

朝日東亞年報 昭和十三年版 菊判三三〇頁・上製箱入 定價一圓五十錢（送料十二錢）

闘ふ戰車 軍神西住大尉（細見大佐寄稿）他四篇 口絵アート紙刷八頁・定價二十錢（送料六錢）

防空常識講座 陸軍航空兵中尉 山田勇述 定價六十錢（送料九錢）

蘭州・西安・寧夏 支那西北邊疆視察記（送料九錢） 長江著・池田孝譯・定價一圓廿錢

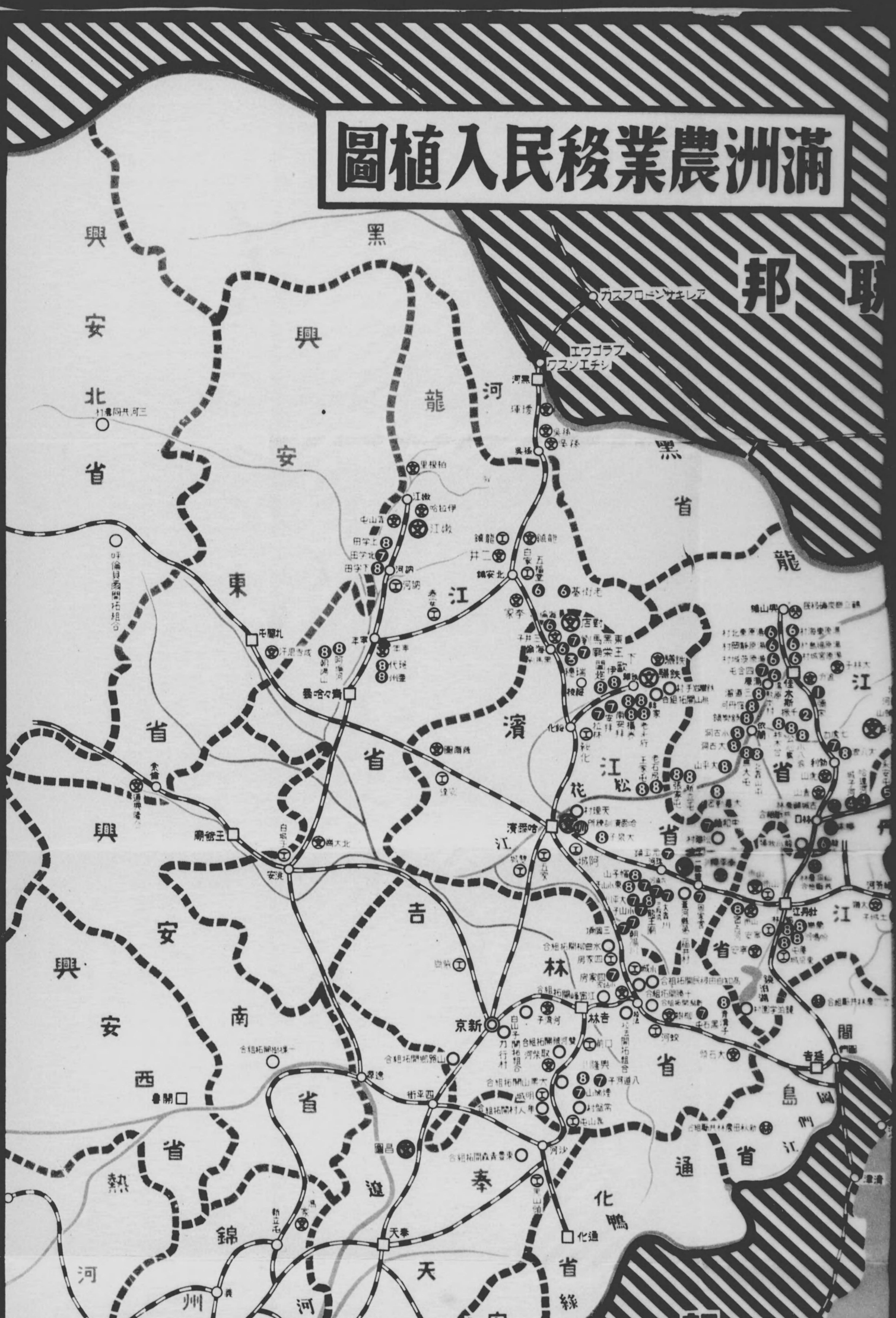
轉換途上の中小商工業 失業轉業問題の解說 定價五十錢（送料六錢）

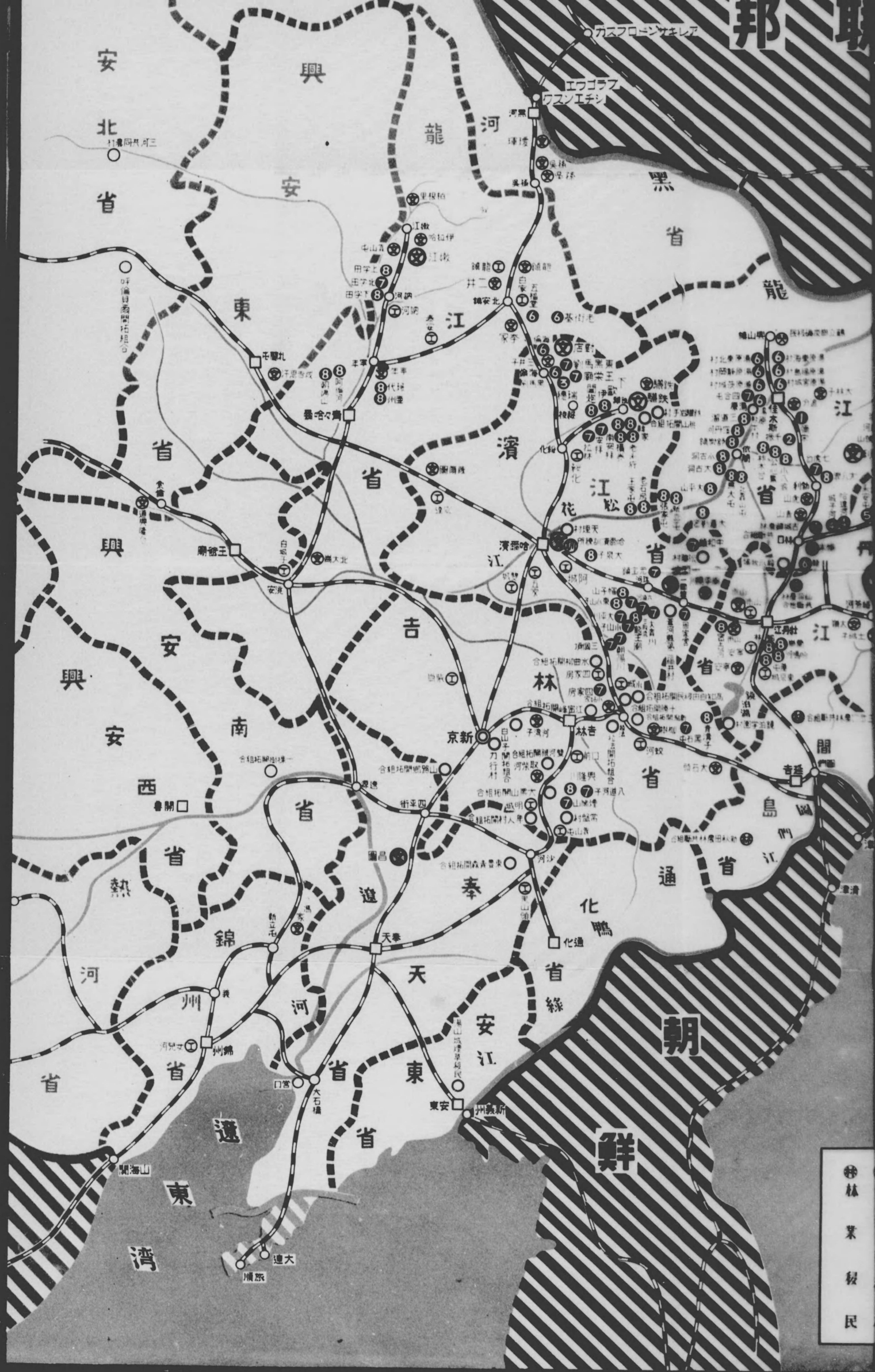
總動員法の全貌 國家總動員法の解說 定價八十錢（送料九錢）

長期建設への途 革新論の花形十七氏執筆 定價四十錢（送料六錢）

東京 大阪 朝日新聞社發行

滿洲農業移民入植圖


聯邦
カスフロービツチ
エウゴラフ
ワスンエチシ
興安北省
興安東省
興安南省
興安西省
熱河省
錦州
黑龍江省
吉林省
遼寧省
奉天
河北省
濱江省
松花江省
通化省
鴨綠江省
間島
龍井
延吉
琿春
佳木斯
牡丹江
吉林
長春
新京
奉天
撫順
鞍山
大連
旅順
營口
錦州
山海關
天津
青島
濟南
徐州
蘭州
西寧
呼倫貝爾開拓組合
牛莊
哈爾賓
齊齊哈爾
海拉爾
滿洲里
黑河
綏芬河
琿春
東寧
通化
安東
奉天
撫順
鞍山
本溪湖
營口
大連
旅順
錦州
山海關
天津
青島
濟南
徐州
蘭州
西寧


邦
カスフロンサキレア
エウゴラフ
ワスンエチシ
黑
龍
江
省
興
安
北
省
東
省
興
安
西
省
熱
河
省
錦
州
省
遼
東
湾
朝
鮮
濱
江
省
吉
林
省
南
興
安
省
遼
省
奉
天
省
安
東
省
通
化
省
鴨
綠
江
省
間
島
省
ハルビン
齊齊哈爾
佳木斯
牡丹江
吉林
京新
奉天
安東
大連
旅順
新義州
大石橋
營口
錦州
山海關
通化
吉林業移民

滿洲農業移民入植圖
ソ聯邦
日本海
朝
黑龍江省
興安
三江
濱江省
吉林省
間島省
通化省
奉天省
安東
牡丹江
新京
哈爾濱
吉林
佳木斯
圖們
四平街
黑河
北安
齊々哈爾
牡丹江

日本海
朝鮮
黒龍江省
三江省
牡丹江省
間島省
吉林省
濱江省
通化省
安東省
奉天省
錦州省
龍江省
新京
吉林
奉天
哈爾濱
安東
大連
旅順
⑧ 農業集團移民（數字ハ入植次數）
義勇軍大訓練所
義勇軍特別訓練所
義勇軍小訓練所
農業自由移民
鐵道自警村
林業移民

朝

¥0.30

朝日新聞社發行